

令和6年12月20日(金)

次 目

(番号) (題 名) (担当) (頁)

三重県安心こども基金条例の一部を改正する条例 (子どもの育ち支援 3 47 課)

48 三重県手数料条例の一部を改正する条例 (建築開発課)

49 三重県警察関係手数料条例の一部を改正する条例 (警察本部) 50

三重県県税条例の一部を改正する条例 (税務企画課) 82

公立学校職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 (教育委員会) 51 83

52 公立学校の会計年度任用職員の報酬等に関する条例の一部を改正する条) 87

- ◎ 公立学校の会計年度任用職員の報酬等に関する条例の一部を改正する条例(条例第52号)
 1 県立中学校の設置に鑑み、定義の規定を整備することとしました。
 2 この条例は、令和7年4月1日から施行することとしました。

条 例 令和六年十二月二十日三重県安心こども基金条例の一部を改正する条例をここに公布します。

三重県知事 一 見 勝 之

三重県条例第四十七号

三重県安心こども基金条例の一部を改正する条例

する。三重県安心こども基金条例(平成二十一年三重県条例第四号)の一部を次のように改正

する。 次の表の改正前欄に掲げる規定を同表の改正後欄に掲げる規定に傍線で示すように改正

や1000	
改 正 後	改 圧 症
超	老
口 (智)	口 (2)
(条例の效力)	(条例の效力)
2 この条例は、今和十二年三月三十一日限	2 この条例は、今和七年三月三十一日限
り、その効力を失う。この場合において、	り、その効力を失う。この場合において、
基金に残余財産があるときは、当該残余財	基金に残余財産があるときは、当該残余財
産の額に相当する金額を予算に計上して、	産の額に相当する金額を予算に計上して、
国庫に納付するものとする。	国庫に納付するものとする。
(凝週推圖)	(凝ূ 押 置)
3 前項前段に規定する期限までに実施さ	3 前項前段に規定する期限までに実施さ
れた基金の設置の目的を達成するための	れた基金の設置の目的を達成するための
事業に係る精算については、この条例の規	事業に係る精算については、この条例の規
定は、今和十二年六月三十日(同日までに	定は、今和七年六月三十日(同日までに当
当該精算が完了した場合にあっては、当該	該精算が完了した場合にあっては、当該精
精算が完了した日)までの間は、なおその	算が完了した日)までの間は、なおその効
効力を有する。	力を有する。

宝 宝

この条例は、公布の日から施行する。

今和六年十二月二十日三重県手数料条例の一部を改正する条例をここに公布します。

三重県知事 一 見 勝 之

三重県条例第四十八号

三重県手数料条例の一部を改正する条例

- 10。 次の表の改正前欄に掲げる規定を同表の改正後欄に掲げる規定に傍線で示すように改正三重県手数料条例(平成十二年三重県条例第四号)の一部を次のように改正する。

	次の表	の改圧消費	に掲げる#	ぬ定を同表の26	₹ H	正後欄に	に掲げる規定	に角線で	不すように改	出
4	ν M° °									
		投	正 後				松	出		
	(手数	料の名称、	金額等)			()	対の名称、	金額等)		
紐	R114#	(盤)			紐	R11≪K	(盤)			
6	1 (と)			6	1 (]			
c	別	第二十六の	上欄に掲	げる事務につ	cr.	金屋	<u> 後ま二十カ</u> e	2 上欄に掲	げる事務に	ς.
	こと中	欄に掲げる	手数料は、	それぞれ同表		シア中	- 欄に掲げる	手数料は、	それぞれ同	. 表
	の下欄	に掲げる機	関の定め	るところによ		の下舗	関に掲げる機		るところに	. 4
	の、測	該関に納け	でするもの	ンとし、熱付さ		り、訓	該機関に納	付するもの	のとし、納付	: HU
	れた手	数料は当該	機関の収す	くわずる。		れた手	教料は当該	機関の収す	くとする。	
띰		(策二条盟)			빔		(第1) 条 関			
		手数料を徴	1	手数枓の金			1	1	手数料の金	
	西	収する事務		類		鬥	収する事務		数	
	1~4		(盤)	(盤)		1~4		(盤)	(盤)	
				<u> </u>		\preceq	\		11 十 日 (茶	
		和二十六年,为多名(由		<u> </u>					券 渋 第 二 十	
		法律第二百年 1 7 4		11 十 11 恒			法律第二百年 1 7 4		条第二項の	
			*** **					** **		
				田(紫巻			大十十年)		規定の適用	
		第二十条第		新三十			第二十条第		を受ける場	
		一一頁第一		条 第 二 項			一一一一一一		合には、四	
		。 。 等 1 。		の規定の			中、 無 二 中		午里)	
		又は第三号		適用を受			又は第三号			
		の処分に係		けるとき			の処分に係			
		る事務		は、四十			る事務			

	四年法律(平成十				
	第百五十				
	中) 無				
	大条第一				
	項に規定				
	する電子				
	組織を使情報処理				
	用する方				
	法により				
	当該処分				
	の申請を				
	する場合				
	十九 百				
	田(紫巻				
	条第二項法第二十				
	<u>の 規 定 の</u>				
	適用を受				
	けるとき				
	は、三十				
	九百円)				
	(盤)	ナ - L ~ L	(盤)	(盤)	(盤)
八十五大麻草の栽第一種大		十回に	大麻草の栽	て米声突	J/ 仏 \1 lm ロ
塔の規制に麻草採取 フィヨブ麻草の素質(称)			培の規制に丁麻耳の非		
関する法律栽培者免力の対象を			関する法律		
(路柱二十 評申 請手			(路柱11十		
三年法律第数萃			三年法律第		
			田二十日		
中) 無 用 朱			中) 第 五 条		
定に基づく第一項の規			定に基づく第一項の規		
第一種大麻 点 2 基 / ク			大麻草採取店は基イベ		
草採取栽培			栽培者免許了原具共民		
者免許の申			の申請に対		
誰に対する			する審査		
## #=					

1 1 1/	17 14- 1111 \(\tau \)	ען ניייני ו ייייני	1111 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		1 10		17 14 14 154	1111 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	た 段 型 切 上 大 麻 草 の 栽					ち り 児 川 大麻草の栽		
	塔の規制に					増ったませる規制に		
	関する法律					関する法律		
	第六条第三					第六条第三	半条手	
	項の規定に	数型				まい 項の規定に		
	基づく第一					基づく大麻		
	種大麻草採					草採取栽培		
	取栽培者名					者名簿の登		
	簿の登録事					録事項の変		
<u> </u>	項の変更					<u> </u>		
	大麻草の栽		三千二百円			大麻草の栽		
	塔の規制に					塔の規制に		
	関する法律					関する法律		
	第七条第三					第七条第三		
	項の規定に	付手数料				項の規定に	菜	
	基づく第一					基づく大麻		
	種大麻草採					草採取栽培		
	取栽培者免					者免許証の		
	許証の再交					再交付		
	*							
\prec $+$ \prec		(盤)	(<+<	(と)	(盤)	(隺)
		(智)	(雀)		- 111 恒	((쌀)	(22)
+ \ 0 \ 三百 \ + \ \		(昝)	(+	- 人の	(智)	(智)	(
+ \ \ \ \ \	(盤)			1	- 111 E			
三 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	連 繁 選 類 渋 (と と と と と と と と と と と と と と と と と と	羅悶甲龍	別表第十一	1 11	- III III	建築基準法	羅認申請	別表第十一
九 三 二 十 六 十 の 日 六	(昭石二十 難雞 選 (略)	ス 集 計 車 調	に定める金別表第十一	1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(昭和二十)建築基準法	又は計画権認申請	に定める金別表第十一
九 百 二 十 十 り り 百 十	(通 又 確 生 計 計 計 単 報 剛 単 単 計 単 単 計 計 計 計 計 計 ま ま ま ま ま ま ま ま ま	織に申言又にとるのの後の後後を発生し	1 11	1 1 1 1 1 1 1 1 1	五年法律第(昭和二十建築基準法	運知 年数 大は計画 離路 申請	額(甲間というない)をある。第一十年の本本のの一十年の本本のできません。
九 三 二 十 一 二 十 一 の 百 八 二 十	日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	料 通 又 確 知 以 報 手 計 計 声 動 画 計 画 書 画 計	は個領にといる。本のは、本のは、本のは、本のは、本のは、本のは、本のは、本のは、本のは、本のは、	1 11	- 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	二百一号) 五年法律第(昭和二十建築基準法	海田和田教をは、東京は、東京は、東京は、東京は、東京は、東京は、東京は、東京は、東京は、東京	は額に別断した別とを申め発にはまる。中の発
九三二十~八 百八二十 十	第 二 五)	料 通 又 確 知 ひ 認 手 計 甲 数 画 請	を は な な な な か な か か か か ま も か み ち ま ま め み ま え え え え か か か か か か か か か か か か か か か	1 11	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	第六条第一二百一号) 二百一号) 五年法律第(昭和二十年號建築工作	巻 田 女 田 女 田 本 本 中 計 計 計 単 国 単 田 単 田 計	る は 額 に 別 離 面) 定 表 数 哲 申 め 第 物 に 請 め 計 る 不 系 系 系 永 永 永 全 条 全 条 大 条 人 帝 ー
九 三 二 十 人 二 十 の 百 八	項第二五) 建) 六百年昭築 同条一法	料 通 又 確 知 公 共 計 計 計 申 教 画 計	乗る は 額 に 別	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日 一 一 一 一 一 一 一 一 一	頃(同法第三年) 第六条第一三百十二百十十年) 在年往律第一年年第十十十年第	巻 選 を と な まままま な は まままままままままままままままままままままままままま	乗るは額に別 築建通)定表 基築知申め第 準物に請る十 法が係又金一
九 三 二 十 六 十 の 回 八 二 十	人 頃 第 二 五) 建 十) 六 百 年 昭 築 七 回 条 一 许 君 基 条 法 第 号 律 二 準 第 第 十 许	料 通 又 確 知 以 報 年 計 申 書 計 書	第 を ひ は 額 に 別 条 権 離 画) 后 表 基 繁 哲 申 め 第 の 番 巻 に 詰 め 十 正 が 糸 女 余 人 舎 一	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	百一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	大 十 通 一 一 海 大 十 第 十 年 三 5 十 三 5 年 三 1 年 2 年 1 年 2 年 1 年 2 年 2 年 2 年 2 年 2 年	を 選 を 対 な 乗 な 乗 な 単 単 単 軽 軽 単 単 副 単 黒 国 非 国 非 国 非 国 非 まきまます まままれる まままままままままままままままままままままままままままままま	第 律 る は 額 に 別 条 種 通 し 定 表 基 築 知 申 め 第 の 準 物 に 請 め に 請 め に 計 が が 気 又 免 ー
九三二十~八 百 八三十 十	一 八 項 第 二 五) 建 項 十) 六 百 年 昭 築 、 七 同 条 一 法 和 基 第 条 法 第 号 律 二 準 八 第 第 一 (第 十 法	料 通 又 確 知 以 報 知 は 記 お は 認 手 計 申 数 面 請	第 第 建 る は 額 に 別一 六 築 建 通) 定 表頃 条 基 築 哲 甲 め 第今 の 準 物 に 請 る 十日 许 が 係 又 愈 一	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	一	を 選 を 対 な 乗 な 乗 な 単 単 単 軽 軽 単 単 副 単 黒 国 非 国 非 国 非 国 非 まきまます まままれる まままままままままままままままままままままままままままままま	第 第 律 る は 額 に 別 一 六 築 硅 通) 定 表 項 条 基 築 知 申 め 第 た の 準 物 に 請 る 十 だ 三 许 が 係 又 金 ー
九三二十~八 百八三十 十 の百八	十一八項第二五)建七項十)六百年昭築 、七屆米一六百年昭築 、七同条一法和基 の第条法第号律二準 四八第第一(第十法	料 通 又 確 知 と は ままままままままままままままままままままままままままままままままま	に 第 第 律 る は 額 に 別 遇 一 六 築 建 通) 定 表 ば 頃 糸 基 築 哲 申 め 第 る 4 の 準 物 に 請 る 十 離 も 三 许 が 係 又 食 一	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		十一人頃第二日した古年七日十〇六百年日の第十〇六百年四部第2年三十五日年四十二日の第2年の第3年の第3年の第3十八第3十八第3十八第十二	巻 油 文 離 知 知 中 計 計 声 数 画 単 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計 計	し 第 第 律 る は 額 に 別書 一 六 築 建 通) 定 表 の 頃 条 基 築 哲 申 め 第 件 た の 準 物 に 請 る 十 に だ 三 许 が 係 又 金 ー
九三二十~ 八 百 八三十 十 の百 八	ス十一八項第二五)建は七頃十)六百年昭築第条、七同条一法和基別入の第条法第号律ニ準十四八の第条は第号第二準十四八第第一(第十法	料 通 又 確 知 以 報 知 以 認 手 計 計 計 報 國 計	認に第第 神るは額に別審 地一六 築 建 通) 定 表 直 (項 条 基 築 知 申 め 第 を る の 準物に 請る十同 確 号 三 法 が 条 又 金 一	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ス十一八頃第二出)離に七届十の六百年昭繚第条、七回条一茶杏藤八八の第条珠第や番に十四八の第条珠第七番十十四八第第十一(第十珠	巻 文 瀬 知 女 田 中 計 路 軽 瀬 単 車 車 黒 乗 車 黒 乗 乗 乗 乗 乗 乗 乗 乗 乗 乗 乗 乗 乗 乗	構し 第 第 律 る は 額 に 別 造書 一 六 築 健 通) 定 表 計 の 頃 条 基 築 知 申 め 第 算 特 た の 準 物 に 請 る 十 基 定 だ 三 法 が 係 又 金 一
九三二十~ 八 百 八三十 十 の百 八	八又十一八項第二五)建 条は七項十)六百年昭築 第第条、七同条一法和基 一八の第条法第号律ニ準 頃十四八第第一(第十法	料 通 又 確 知 以 報 知 以 認 年 計 申 数 面 請	頃認に第第律のは額に別た番地一六築種通)定表だす。近頃条基築的甲め第したの名の準物に謂る十書の番甲の番甲の名の一番の一番のに謂る十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	百一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	人又十一人頃第二出) 神条に七頃十) 六百年昭終第第条、七回条一許哲縣一十二十八の第条決第 44 第二番頃十四 7 第第1 年 1 (第十年	を と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	準構し第第律るは額に別 又造書一六築種通)定表 は計の項条基築知甲め第 特算特たの準物に請る十 定基だだ三法が係又金一
九三二十~ 八 百 八三十 十 の百 八	者 八 又 十 一 八 項 第 二 五) 建し 条 は 七 頃 十) 六 百 年 昭 築 く 第 第 条 、 七 同 条 一 法 和 基 は 一 八 の 第 条 法 第 号 律 二 準 第 項 十 四 八 第 第 一 (第 十 法	料 通 又 確 知 は 認 知 は 記 手 計 申 数 面 請	の頃認に第4番中では額に別種に審ね一六築建通)定装だす。14番条 基築を申め第1年であるの 14番に請め十二でも24の 14番に請め十事 14年の 14年の 14年の 14年の 14年の 14年の 14年の 14年の	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		枯人又十一人頃第二日)確し条に、後に七頃十)六百年昭終へ第第条、七回条一许哲谌は一八の第条決第号毎二番第眞十四八第第一(第十许	巻 油 又 離 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 明 明 明 明 明 明	増維し第第律るは額に別数又造書一六築建通)定裁築は計の項条基築的申め第構等質特たの準物に請る十進元基にだ三法が係又金一
九三二十~ 八 百 八三十 十 の百 八	二者八又十一八項第二五)建項し条は七項十)六百年昭築にく第第条、七同条一法和基おは一八の第条法第号律二準との第条法第号十二、第十四八第第一(第十法	料 通 又 確 知 以 報 知 は 認 手 計 申 数 画 請	等 の 頃 認 に 第 第 律 を は 額 に 別 が 建 た 審 掲 一 六 築 健 通) 定 表 審 純 だ 査 げ 頃 条 基 築 知 申 め 第 査 土 し を る 各 の 準 物 に 請 る 十 を 事 書 同 確 号 三 法 が 係 又 金 一	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		こお人又十一八頃第二出)離頃し条は七頃十)六百年昭終にく第第条、七回条一浒杏堪おは一八の第条浜第や律二準さは一八の第条珠第中第二番に第二十四八第第一(第十珠	が 通 又 離 知 と は お け い い ま は い ま は い ま は い ま は ま は ま ま ま ま ま	計 増 準 構 し 第 第 律 る は 額 に 別 算 改 又 造 書 一 六 築 建 通) 定 表 基 築 は 計 の 項 条 基 築 知 申 め 第 準 特 算 特 た の 準 物 に 請 る 十 に 造 定 基 定 だ 三 法 が 係 又 金 一
九三二十~ 八 百 八三十 十 の百 八	者 八 又 十 一 八 項 第 二 五) 建し 条 は 七 頃 十) 六 百 年 昭 築 く 第 第 条 、 七 同 条 一 法 和 基 は 一 八 の 第 条 法 第 号 律 二 準 第 項 十 四 八 第 第 一 (第 十 法	料 通 又 確 知 以 報 知 以 認 知 は 認 手 計 申 数 面 請	の頃認に第4番中では額に別種に審ね一六築建通)定装だす。14番条 基築を申め第1年であるの 14番に請め十二でも24の 14番に請め十事 14年の 14年の 14年の 14年の 14年の 14年の 14年の 14年の	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		枯人又十一人頃第二日)確し条に、後に七頃十)六百年昭終へ第第条、七回条一许哲谌は一八の第条決第号毎二番第眞十四八第第一(第十许	海 河 東 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知 知	増維し第第律るは額に別数又造書一六築建通)定裁築は計の項条基築的申め第構等質特たの準物に請る十進元基にだ三法が係又金一

(は。) 6 戦	建	む。) の戡	頃ただし書
定に基づくず、	に、別表第一種多様とは	定に基づく	の建築主事
確認の申請区~割く	十四第一号	確認の申請	が審査をする策察を言言
又は同法第一番の日間	に定める金	又は同法第一番語の目語	る場合にあれる。
十八条第二	額を、申請して、8分の	十八条第二万以同治家	っては、建
項(同法第一十八多第二	文は通知に	項(同法第一十)多第二	※ を ジ と
八十七条第	係る建築物	八十七条第一万,一百分第	に、別表第
一項、第八	の建築が建	一項、第八	十四第一号
十七条の回	※数のエネ	十七条の団	に定める金一門を一場
又は第八十	ルギー 演奏 の 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	又は第八十	額を加算し
人条第一項	世紀の 同上 一	八条第一項	た金額)
若しくは第	等に関するが 値 の	若しくは第一クタターガ	大 (d) (kg)
二項におい	法律(平成	二項におい	
て準用する	<u> 十十 </u>	て準用する	
場合を含って、当月で	無 第 五 十 三	場合を含	
5。) 0 黙	中) 無十二	が。) の戡	
定に基づくず、	<u> </u>	定に基づく	
通知に対する。	だ と き の 関	通知に対する。	
る審査	※ 参 工 水 グ	る審査	
17. 144. 141	<u> </u>	V- M# 14	
	結 湯 。 。		
	定を行うこ		
	とが出数的		
	容易な特定		
	建築行為で		
	ある場合		
	で、篳篥物		
	<u>6 H ¼ 5 ¾</u>		
	一消費性能		
	の向上準に		
	関する法律		
	超 行 規 則		
	()		
	八年国土交		
	通省令第五		
	中) 無11米		
	無一 項 無 一		
	号に適合す		
	るかどろか		
i i I	1 1 1	ı I	ı 1 1

	を は を し を の の の の の の の の の の の の の			
	(4 年)			
(((盤)	川 四 十 (盤)	(盤)	(盤)
式 6 1		元 6 1		
三百五長期優良住長期優自	(別表第十六	三百五長期優良台	住長期優良	別表第十六
十五の宅の普及の住宅建築		十五の宅の普及の		
五 促進に関う等計画等	額(長期優			額(長期優
る法律(平認定申請	明良住宅の普	る法律(声	+ 認定申請	良住宅の普
成二十年法手教科	及の促進に	松二十年;	压手数料	及の促進に
律第八十七	関する法律	律 箫 八十 -	ב	関する法律
中) 第 王 朱	第六条第二	中) 無用	*	第六条第二
第一項から	項の規定に	第一陣かる	2	項の規定に
第七項まで	よる申出が	無七 声 ※)		よる申出が
の規定に基	ある場合に			ある場合に
グく長期優	は、別表第			は、別表第
良住宅建築	十一に揺め	型 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世		十一に定め
数	る金額(申	李		る金額(申
認定の申請	請に係る建	認定の申載		請に係る建
に対する権	築物が建築	に対する	毎	築物が建築
 	基準法第六	 		基準法第六
	条の三第一			条の三第一
	頃各号に掲			頃ただし書
	M C C C C C C C C C C C C C C C C C C C			計算基準又の特定構造
	だし非の関質を同項と			は特定増改責領理等又
	築主事等が			※構造計算
	審査する場象主事等な			基準に適合領権法責賃
	合にあって			するかどう
	は、建築物			かを同項と
	ごとに、別			だし書の理
1 1		1 1	ļ	, TIT O NX

(株の大田田田の田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田			表第十四第		築主事が審
(株の大の田田田の名のは、19年の日本の金融を (本のののでは、19年の日本ののでは、19年の日本ののでののでは、19年の日本ののでののでは、19年の日本ののでのでは、19年の日本ののでは、19年の日本のでは、19年の日本ののでは、19年の日本ののでは、19年の日本ののでは、19年の日本ののでは、19年の日本ののののののののののののののののののののののののののののののののののの					
() 「) 「) 「) 「 1 1 1 1 1 1 1 1 1					
雑物が進く 薬物が連続 を発生 を発生 を発生 を発生 を発生 を発生 を発生 を発生					
業物が建築 なの番種 かの審価 等計画書がのの問題となる。 の中書に対するのののでは、別表等 なのののでと、別表等 なのののでは、別表等 なのののでは、別点をのののでは、のののでは、のののでは、のののでは、ののののでは、なるのののでは、なるののでは、なるののでは、なるののでは、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、					
※参ぶ離棄 かる審査 の申請になる。 の申請に対しる。 の事性 をのの認定 をのの認定 なら、別表等 でのの場合とは、しい。 は、、別でのは、しい。 は、、のののは、しい。 は、、ののは、しい。 は、、ののは、しい。 は、、、ののは、とののは、とののは、とののは、とののは、とののは、というとは、ない。 は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、					
禁物が建築 (の事績に係る建 (の申請に対するのの課性) (の申請に対するのの課性) (の事情になるのででしまま) (の事性に対したとのとなる。なるないと、ののないと、ののないと、ののないと、ののはといい、別表等となる。なる。なる。なる。なる。なる。なる。なる。なる。なる。なる。なる。なる。な			しれ () () ()		
禁物が建築 (の事績に係る建 (の申請に対する金額(申請に対するの場合には、別表第(中籍になる場合には、別表第(中間等のの部とは、別表第(中間等のなりの場合には、なる場合には、なる場合には、ない別表第(なる場合には、ない別表第(なるののに進には、ない。 (のはには、ない。のは、は、ない。ない。な、は、は、ない。な、は、は、ない。な、は、は、ない。な、は、は、ない。な、は、は、ない。な、は、は、ない。な、は、は、ない。ない。は、は、ない。ない。ない。ない。ない。ない。ない。ない、は、は、ない。ない、は、は、ない。ない、は、は、ない。ない、は、は、ない。ない、は、は、ない。ない。ない、は、は、ない。ない、は、は、ない。ない、は、は、ない。ない。は、は、ない。は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、					一号に定め
等がが建築できる。 ない、別表第 ないで、別表第 ないで、別表第 ないの場合とは、別表第 なら場合とは、別表のでは、、別表ののの記された。 は、、別表ののの記さななる。 は、、別表ののの記さななる。 は、、別表ののの記さななる。 は、、別表ののの記さななる。 は、、別表ののの記さななる。 は、、別表ののの記さななる。 は、、別表ののの記さななる。 は、、別表のののはない。別表は、なる。 は、、別表は、なる。 は、、別表は、なる。 は、、別表は、なる。 は、、別表は、は、、のは、は、、のは、は、、のは、は、、のは、とは、なる。 は、、別表は、なる。 は、、のは、は、なる。 は、、のは、は、なる。 は、、のは、は、なる。 は、、のは、は、なる。 は、、のは、は、なる。 は、、のは、は、なる。 は、なる。 は、なる。 は、なる。 は、な、な、は、は、な、は、は、な、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は					る金額を加
禁物が建築 なる籍を を書きる。 を書きる。 を書きる。 を書きる。 を書きる。 を書きる。 を書きる。 は、別表第 は、の申出が は、の申出が は、の申出が は、の申出が は、の申出が は、の申出が なる場合にと。 をできませい。 は、、別表第 しの中出が は、の中出が は、のは、のは、 は、、別、別、別、別、別、別、別、別、別、別、別、別、別、別、別、別、別、別、					算した金
禁物が建築 ・る審査 ・る審査 ・る審査 ・の審査 ・の審査 ・な事値 等計画等の は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、と認定を受 なる場合に なの場合に は、別表第 ははは、別表第 は、別表第 は、別表第 はははなっまる。 なる場合に は、別表第 はははなっまる。 はははなっまな。 はははなる。 なる場合に はははなる。 はははなる。 はははなる。 は、別別表第 なの場合に は、別別を はははなる。 は、これ、別別になる。 は、これ、別別には、ない。 は、これ、のまな。 は、これ、のまな。 は、これ、のまな。 は、これ、、のまな。 は、これ、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、					額)を加算
禁物が建築 赤る審査 赤る審査 赤る審査 赤る審査 かる額(申請に対え 十一に定め は、別表第 1 十一に定め 2 日離に対 1 十一に定め 2 日離に対 1 十一に定め 2 日離に対 1 十一に定め 2 日離に対 1 十一に足め 2 日間等の 2 日間でと受しまままままままままままままままままままままままままままままままままままま					した金額)
禁物が建築 する審査 の申請に対する金額(申請に対対し、別表第 等計画等の は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、別表第 は、の場合に は、の場合に は、の場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる場合に なる。場合に なる。場合に なる。場合に なる。場合に なる。場合に なる。場合に なる。場合に なる。場合に は、ことを は、こと は、ことを は、ことを は、ことを は、ことを は、ことを は、ことを は、ことを は、ことを は、こと は、ことを は、ことを は、ことを は、ことを は、ことを は、ことを は、ことを は、ことを は、ことを は、こと は、ことを は、こと は、と は、と は、と は、と は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	三三五五	長期優良住長期優点	以別表第十七	三百五長期優良住長	期優良別表第十七
一部に保る連弾を引きます。 一部に保る連続に係る連続に係る連続に対す 1 を金額に 1 を金額に 1 を金額に 1 を 1	十年の	宅の普及の住宅建築	米に定める金	十五の宅の普及の住	宅建築に定める金
楽物が建築できる審査の申請に対する金額(申請に係る建変更の認定を引き計画等のなる場合には、別表第したと思知を受け、別表第しは、別表第しは、別表第しは、別表第しは、別表第しは、別表第一項の規定に基づ料 関する法律 関する法律 関する法律 東京に基づ料 関する法律 関する法律 東京に基づ料 東京に基づ料 東京に基づ料 東京に基づ料 東京に基づ料 東京に基づ料 東京に基づ料 東京に基づ料 東京に進づ料 東京に進づ料 東京に進づ料 東京に進づ料 東京に進づ料 東京の法律	4<	促進に関す等計画等	ず額(長期優	六 促進に関す等	計画等額(長期優
薬物が建築する審査の申請に対の申請に対の申請に対する金額(申該をの認定は、別表第は、別表第なり認定は、別表第はなる場合には、別表第はな事計画等のなる場合には、別表第はな事計画等のなら場合には、別表第はな事計画等のなには、別表第は、別表等は、別点を受します。 しょう はい はい はい ない はい はい ない はい ない はい はい ない はい はい ない はい はい はい ない はい		る法律第八変更認定	と良住宅の 普	る法律第八変	更認定良住宅の普
薬物が建築する審査の申請に対の申請に対して審査の申請に対して定めの申請に対すしに定めな事計画等のなる場合になる場合には、別表第となる場合には、別表第となる場合には、別表第はな事計画等のなる場合には、別表第はな事計画等のなる場合には、別表第はな事は、別表の場合には、別表の場合には、別点を受しまた。		条第一項の申請手数	亥の促進に	条第一項の申	請手数及の促進に
築物が建築する審査の申請に対する金額(申請に対の申請に対す」に定めの申請に対すしに定めな更の認定は、別表第等計画等のなる場合には、別表第は計画等のは、別表第は、別表第は、別表第は、別表第は、別表第は、別表第は、別表第は、別表第		規定に基づ料	関する法律	規定に基づ料	関する法律
薬物が建築する審査する審査の申請に対して審査の申請に対して定めの申請に対して定めの申請に対して定めな更の認定は、別表第年上に定めなる場合になる場合には、別表第等計画等のなる場合には、引入中出が、日代生建築		く認定を受	第六条第二	く認定を受	第六条第二
築物が建築する審査する審査 「中る審査」を金額(申請に対する審査」を金額(申申請に対す」と定め、申請に対す」に定め、申請に対す」に定め、政更の認定は、別表第一次更の認定は、別表第一番計画等の、等計画等の		けた長期優	項の規定に	けた長期優	項の規定に
築物が建築		良住宅建築	よる申出が	良住宅建築	よる申出が
築物が建築 築物が建築 海に係る建計に係る建する審査 する審査 小う審査 の申請に対 十一に定め		等計画等の	ある場合に	学計画等の	ある場合に
築物が建築離に係る建計に係る建する審査を審査する金額(申		変更の認定	は、別表第	変更の認定	は、別表第
築物が建築請に係る建請に係る建		の申請に対	十一に定め	の申請に対	十一に定め
築物が建築		する審査	る金額(申	する審査	る金額(申
			請に係る建		請に係る建
			築物が建築		築物が建築
			基準法第六		基準法第六
			条の三第一		条の三葉一
関名号に増			項各号に掲		項ただし書
びる確認権の特定権担			げる確認審		の特定構造
直を同項と			査を同項た		計算基準又
だし 書 の 選			だし書の建		は特定増改
			築主事等が		築構造計算
審査する場と関合			審査する場		基準に適合
合にあって			合にあって		するかどう
は、建築物			は、建築物		かを同項た
N A U M C M			ごとに、別		だし書の建
			表第十四第		築主事が審
1 中に定め			一号に定め		査する場合

		した金額) 鍵)を加算る 生質 と た 金額を加				額 算 る 一 表 ご は に し 食 号 第 と 、 ある ら 額 に 十 に 種 か た を 定 四 、 築 り 質 金 加 め 第 別 物 て 算 金 加 め 第 別 物 て
						した金額)
十月 G	(盤)	(盤)			(盤)	(盤)
\(\psi\) \(\sigma\) \(\psi\)			十 一 十 11			
				_		
五の九			H 6 +			
三百五都市の低炭				1都市の低炭		
十 に関する法 丁玉の素化の促進		額(通知にに定める金		こ間下お去の保進		額(通知にに定める金
		係る建築物				係る建築物
		が建築基準				が建築基準
第 八 十 回		法第六条の		第八十四		法第六条の
中) 無十≪		三第一項各		中) 無十条		三第一項と
無 四 暦 (回		号に掲げる	1	第四項(同		だし書の特
郑熙十一 《		確認審査を		浓 第十一 条		定構造計算
第二型にお		同項ただし		第二項にお		基準又は特
いて雑用や		書の建築主		いて準用す		定增改築構
る場合を含		事等が審査		る場合を含		造計算基準
む。) 6 黙		をする場合		む。) の		に適合する
定に基づく		にあって		定に基づく		かどうかを
無然都市開		ば、建築物		集約都市開		言 同 項 た だ し
※ 無 ※ 計 画		ぎょっぽうごとに、別		然事業計画		事が審査を書の建築主
する審査の通知に対		一号に定め表第十四第		する審査の通知に対		する場合に買りなる
)		る金額を加っまり戻る		12 1/2 [JAH VIII]		あっては、
		算した金				建築物ごと
		盤)				に、別表第
						十四無一中
						に定める金
						額を加算し
						た金額)

	10 to 0 to 17 th	.17 .10.1 114. 140						-	1	~		. 1 7			1.0			1.5	_	-
	都市の低炭									2 年										
	素化の促進					- - -				2 命										
- 1	に関する法				1	- 1				e K										
	律第五十三	定申請手	低炭土	苯化の				無:	無上	4+	- [1]	定	#		#	田	珉	米	7	
	条第一項の	数学	促進	に関す				₩:	無	1 堙	(0	数	卖			佰	浬	N	黑	
	規定に基づ		る法は	康策 压				猫	定に	に基	7					N	洪	無	無	
	く低炭素建		十回。	张 第 1				~ :	ቒ∃	灰素	一世					+	E	₩	無	
	築物潜築等		項の出	規定に				涨:	数 #	揯 襁	報					河	6	撰	定	
	計画の認定		4 W 1	出れ				111111111111111111111111111111111111111	画 (S 18	定					ન્4	N	#	\pm	
	の申請に対		16 W E	家合に				6	# #	間に	. 茶					Ð	N	平	ĮΠ	
	する審査		ゼ′ 3	別表笛				to 1	M F	* *						は	,	沼	表	
			+ 1 !	に定め												+	1	IJ	定	
			る金草	級 (田												10	金	額	(
			請には	除る建												灩	NJ NJ	庥	10	
			辮 を ;	か建築												粼	A	Ž	世	
			重 槧	法第六												革	崇	뇄	無	_
			然 6 1	11 無 1												₩	6	111	無	-
			項各只	ラに胡												严	た	だ	_	_
			げるは	催認案												0	椞	定	華	_
			査を□	同項を												111111111111111111111111111111111111111	芦	基	標	_
			だしま	書の建												は	椞	定	型	-
			雞 王士	事等が												鍬	華	型	111111111111111111111111111111111111111	-
			審查	なする												華	舞	N	蝈	-
			場合に	にあっ												fo	N	Ž	Ž	-
			ては、	建築												γÇ	<i>1</i> 61	111	严	
			を ジー	ゎ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙												だ	ے	#	6	
			別表は	账十 E												쌞	Ж	₩,	Ž,	
			無一口	专に守												查	461	4	10	
			8 B	金額												√□	NJ.	₩	7	
			を加	早した												せ	,	世	銤	:
			金額)	を甘												ل رُ	ىد	N	,	
			単し	た金												表	無	+	日	
			籢)													1	ıþ	۲Į	定	
																10	④	額	<i>1</i> E	
																뺄	_	ا ا	J	
																額				
																. د				
三百五	都市の低炭	低炭素建	別表は	账11十	11	1	日用	₩.	# (3 年	1 IK	低	账	**						
		築物新築				- - -														

十二 に関する法盤	ず計画変額(都市の	十二 に関する法	等計画変額(都市の
	太認定申低炭素化の		更認定申低炭素化の
条第一項の禁	明手数料 促進に関す		請手数料 促進に関す
規定に基づ	る法律第五	規定に基づ	る法律第五
~ 低 炭 素 建	十五条第二	◇ 低 炭 素 建	十五条第二
※ 物	頃において	※物 新 築 等	頃において
計画の変更	準用する同	計画の変更	準用する同
の認定の申	法第五十四	の認定の申	法第五十回
請に対する	条第二項の	誰に対する	条第二項の
海 衽	規定による	海街	規定による
	申出がある		申出がある
	場合には、		場合には、
	別表第十一		別表第十一
	に定める金		に定める金
	額(申請に		額(申贈に
	係る建築物		係る建築物
	が建築基準		が建築基準
	法第六条の		法第六条の
	三第一項各		三第一頃た
	号に掲げる		だし書の特
	確認審査を		定構造計算
	同項ただし		基準又は特
	書の建築主		定增改築構
	事等が審査		造計算基準
	をする場合		に適合する
	にもって		かどうかを
	は、建築物		同項ただし
	どろに、型		書の建築主
	表第十四第		事が審査を
	一歩に揺る		する場合に
	る金額を加		もっては、
	算 し た 金		建築物ごと
	額)を加算		に、別表第
	した () ()		十回無一中
			に定める金
			額を打算し
			た ④ 籐) を
			加算した金
			盤)

三百五建築物の工建築物エ別表第二十	三百五建築物の工建築物工別表第二十
上等に関す適合性判 丁三 曹性能の向消費性能を額	
る法律第十定手数料」	上等に関す適合性判
	成二十七年 る法律 (平) 定主 では では では では では では では では では では
	<u> </u>
<u> </u>	川中) 無十
規定に基づ	
く連築物工	
ベルギー 海	<u> </u>
曹性能適合	親 定 選 グ
性判定	✓ 無
	ベンギー 海
	曹性能適合
	和 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型
三百五建築物の工建築物エ別表第二十一	
十五のネルギー消水ルギー二に定める	
上四 曹性能の向消費性能金額	十四 費性能の向消費性能金額
上等に関す適合性変	上等に関す適合性変
る法律第十更判定手	る法律第十更判定手
一条第二届数型	
又は無十二	⋉は無十川
然寒川頃 6	条無川風の
規定に基グ	規定に基づ
✓ 類 ※ 参 H	✓ 無 繁 参 H
ネイボー油	ベンギー 海
實性能適合	彰 牲 怨 滷 40
型 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世	型型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型
三百五建築物の工建築物工別表第二十	三百五建築物の工建築物工別表第二十
	十五のネルギー消ネルギー三に定める
十五 費性能の向消費性能金額	十五 費性能の向消費性能 金額
上等に関す適合性判	上等に関すって利
る法律第十定に係る	る法律第十定に係る
一条第二項軽徴な変	
又は第十二更に該当	又は第十三更に該当
条第三項にする旨の	<u> </u>
規定する軽証明書交	規定する軽証明書交
微な変更に付申請手	微な変更に付申請手

			は数数でして	
ることを語		10 ソフラ		
する書面の		₩ W #		
交付申請に		交付申		
対する審査		対する		
三百五建築物の工建築物工	3. 英辞 1.1 十		物の工建築物工	3 英 第 1 1 上
十五のネルギー消ネルギー			てー消えルギー	
十六 費性能の向消費性能			眠の向消費性能, ううう	
上等に関す向上計画			に関す向上計画はのほぞ現れ自	
る法律(以認定申請)			1. (以認定申請。	
下この頃に手数料				第三項に規
	定する申請のは、			定する申請
かできる。)	建築物が次	2 3 5		建築物が次に、
第二十九条	に掲げる場		-	に掲げる場
<u>継一風</u> の戡	合に該当する。	紙一点		合に該当するものものま
定に基づく	る場合にあ	定に世		る場合にあ
解黎物工	っては、そ	憩 築 和		っては、そ
ルギー消費	れぞれ次に		- 消 實	れぞれ炊に
新需但力準	定める金額	新	로긔늚	定める金額
画の認定の	を加算した	画の盟	13年の	を加算した
申請に対す	金額)を合	中間と	い対す	金額)を合
る審査	算して得た	る審法	4	算して得た
	酸			00000000000000000000000000000000000000
	√ 策 ※ √ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※			√ 策 √ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※<
	十条無二			十五条第
	頃の規定			三項の規
	による申			定による
	出がある			申出があ
	場合 別			る場合
	表 第 十 1			別表第十
	に定める			一に定め
	金額			る金額
	п			□ ∠ € 冊
	田に廃る			田に廃る
	申請選案			申請建築
	物が建築			物が建築
	基準法第			基準法第
	大 《 6 111			大 条 6 111
	第 一 厘 を			第一項と

	- 予に 報び		だし書の
	<u>る 編 器 権</u> <u>よっ 末 こ</u>		幸 心 華 迫
	<u>着</u> を同項		計 算 業 本 が
	ただし書		又は特定
	の建築主		増改築構
	事等が審		<u> </u>
	准をする		準に適合
	場 つ 別		するかど
	表第十四		うかを同
	無一中に		項ただし
	定める金		書の建築
	競		主事が審
			査をする
			場合 別
			表第十四
			第一中に
			定める金
			類
三百五連築物の工建築物工		百五建築物の工建築物工	
十五のネルギー消ネルギー		五のネルギー消ネルギー	
十七 費性能の向消費性能		- 七 費性能の向消費性能	
上等 に 関す 恒 土 準 恒		上等に関す向上計画	
る法律(以変更認定		る法律(以変更認定	
下この頃に申請手数		下この頃に申請手数	
ついん。) おいて (いては、記	かいる。) おいて[紙] <u>萃</u>	
	四) に定め表 第 二 十	•	四)に定め表第二十
<u>継一風</u> の戡	る一棟当た	第一項の規第三十六条	る一棟当た四、ひぼめ
定に基づく	のの金額	定に基づく	ひ の 会 登
车梁物工水	(建築物工术 2 12 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17	(注 第 三 ・ 。 (数 (数 (数 ()
ルギー消費	九条第三項	ルギー消費	四条第三項
新語 但 十 羋	に規定する	新信 山草	に規定する
画の変更の	申請建築物	画の変更の	申請建築物
認定の申請	が次に掲げ	認定の申請	が次に掲げ
に対する審	る場合に該	に対する審	る場合に該
柏	当する場合	柏	当する場合
	にもって		にあって
	は、それぞ		は、それぞ
	れ次に定め		れ次に定め
·		·	•

る金額を加	る金額を加
算 し た 金 	算 し な 後
額)を合質	額)を合質
して得た額	して得た額
	√ 新
十 1 ≪ 無	十六条第
11 暦 と 投	11 暦 22 発
3 と 舞 田	シレ 舞 田
する渋簾	する渋開
111 十 《 無	川十月≪
<u>三面</u> の戡	<u> </u>
定による	規定によ
申出があ	る申出が
る惑句	ある場合
<u> </u>	
一に定め	十 1 2 世
る金額	める金額
ロートの田	□ ∠ ○ ⊕
田に廃る	田に廃る
田	田 龍 ป
物が建築	物が悪寒
<u> </u>	選 準 渋 第
长 《 6 11]	₹ % 6 111
無 風 布	第 一 頃 七
<u> </u>	<u> </u>
る籍器権	<u> </u>
	計
クを対し書	増改築構文は特定
事等が審の選案主	<u> </u>
するする	新 7 涵 句
整 包 配	
	<u> </u>
第一 中 に	掛 れ が し
定める金	神の 選 繁
類	
	准をする
	整 包 配
	
 	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,

三百五

十 代 ~ 三三十二

十回

備考

(盤)

(盤)

第一号に 定める金

			は	111111111111111111111111111111111111111	国	層	女	#	数	较)				
1	世	翐	極	<i>₩</i>	世	翐	to	10	鄵	⟨□	(黎)	型	(🗉	1	丰
7	K	IJ	1 2	1	N	級	型	IJ	贸	10	。 又	 	110	表	<u>,</u>
49	2.5	٢	<u>1</u> =	೨	0)	f	R	灈	ĮП	を降	<u> </u>	°)		
		长	恒	類	6	⟨□	11111111				#		徴 な り	④	
111 +	- }	升	×	_		7	以	\mathbb{K}	6	∌	1 1	R 1	1 1 1	T	
0															
111 +	-	升	×	_		7	491	超	W	Ī	111	ς †) 	T	
平士	· ×	_		\neq	以	\mathbb{K}	0	₩	0						
五五	- 方	×	_		$\stackrel{\ \ }{_{\sim}}$	49	盟	ıΚ	1	H	1 1 1	R 11	1 1 1	T	
平士	× ;	_		\neq	以	\mathbb{K}	0	پ	6						
111	I 片	子	×	_		7	49	超	W	1	工,	R +) 	E	
五五	- 方	×	—		$\stackrel{\textstyle >}{\sim}$	以	\mathbb{K}	6	J.	6					
五百	I 片	书	×	_		7	<i>₩</i>	超	W	1	+	1	田		
平士	× ;	_		\neq	以	\mathbb{K}	6	"₽	6						
# #	- 九	×	_		7	4	翠	W	1	+	+1	٦ >	田		1
											1				•

(盤)

(盤)

は計画通知手数料) 一建築物を建築する場合(移転(同一敷

|別表第十一(建築基準法に基づく確認申請又||別表第十一 (建築基準法に基づく確認申請又|

三百五

+ 1< ~

三百六

十回

備考

地内における移転に限る。以下この表に

(盤)

(盤)

三百五建築物の工建築物工別表第二十 十五のネルギー消ネルギー式に定める 費性能の向消費性能金額

> 上等に関すに係る認 る法律第四定申請手

十一条第一数科

項の規定に 基づく建築 物エネルギ -消費性能 に係る認定 の申請に対 する審査

(盤)

(盤)

おいて同じ。)する場合な	%黍~。)
床面積の合計	観手数料の金
の三十平方メートル以内のも	八千円
平方メートル以内のもの三十平方メートルを超え百	一万九十円
平方メートル以内のもの百平方メートルを超え二百	四万一十日
百平方メートル以内のもの二百平方メートルを超え五	大万三千円
平方メートル以内のもの五百平方メートルを超え干	+ K + F E

平方メートル以内のもの	E
ニ干平方メートルを超え一	11+111121
万平方メートル以内のもの	十日
一万平方メートルを超え五	三十四万 I
万平方メートル以内のもの	十日
五万平方メートルを超える	大十一万円
₽ C	

11~1 (盤)

平方メートル以内のもの	
ニ干平方メートルを超え一	<u>三十三万九</u>
万平方メートル以内のもの	作 E
一万平方メートルを超え五	三十五万二
万平方メートル以内のもの	作 E
五万平方メートルを超える	六十三万円
₽ <i>C</i>	
リ~カ (を)	

別表第十一の二(建築物のエネルギー消費性 能の向上等に関する法律に

基づく審査手数料)

M A	
一戶建	二百平方メートル以一万五千円
て住宅	K 6 % 6
	二百平方メートルを一万六千円
	超えるもの
共同住	三百平方メートル以二万七千円
伽 翀	K0%0
	三百平方メートルを四万二千円
	超え二千平方メート
	<u> </u>
	ニキ平方メートルを大万六千円
	超え五千平方メート
	<u> </u>
	五千平方メートルを八万五千円
	超えるもの
備老	この表において、「共同住宅等」

とは、共同住宅、長屋その他の一戸建 ての住宅以外の住宅をいう。

請又は完了通知手数料)

の特定工程に係る建築物を除く。) を建 築した場合 (移転 (同一敷地内における 移転に限る。以下この表において同じ。) **ਅ** 徐 〈。)

手数料の金 床面積の合計 額

|別表第十二(建築基準法に基づく完了検査申||別表第十二 (建築基準法に基づく完了検査申 請又は完了通知手数料)

一 建築物(建築基準法第七条の三第一項 一 建築物(建築基準法第七条の三第一項 の特定工程に係る建築物を除く。)を建 築した場合(移転(同一敷地内における 移転に限る。以下この表において同じ。)

%除く。)

手数料の金 床面積の合計 額

三十平方メートル以内のも二万九千円	-
6	
三十平方メートルを超え百三万五千円	-
平方メートル以内のもの	
百平方メートルを超え二百五万八千円	_
平方メートル以内のもの	
二百平方メートルを超え五八万二千円	_
百平方メートル以内のもの	
五百平方メートルを超えて八万八千円	-
平方メートル以内のもの	
千平方メートルを超え二千 九万七千円	_
平方メートル以内のもの	
ニ干平方メートルを超えー十七万七万	-
万平方メートル以内のもの 円	
万平方メートルを超え五二十五万	1
万平方メートル以内のもの 千円	
五万平方メートルを超える四十六万四	<u>.</u>
中田	

の特定工程に係る建築物に限る。) を建 築した場合 (移転を除く。)

床面積の合計	額手数料の金
の三十平方メートル以内のも	二万八千円
平方メートル以内のもの三十平方メートルを超え百	三万四十日
平方メートル以内のもの百平方メートルを超え二百	五万六千円
二百平方メートルを超え五	セア丸 F 円
五百平方メートルを超え千百平方メートル以内のもの	八万四千円
干平方メートルを超え二千平方メートル以内のもの	九万一千円
二千平方メートルを超え一平方メートル以内のもの	→
一万平方メートルを超え五万平方メートル以内のもの	

二 建築物(建築基準法第七条の三第一項 二 建築物 (建築基準法第七条の三第一項 の特定工程に係る建築物に限る。)を建

築した場合 (移転を除く。)

床面積の合計	観音数料の金
三十平方メートル以内のも	一万七十円
6	
三十平方メートルを超え百	
平方メートル以内のもの	
百平方メートルを超え二百	三万四千円
平方メートル以内のもの	
二百平方メートルを超え五	四万九千円
百平方メートル以内のもの	
五百平方メートルを超え干	六万四千円
平方メートル以内のもの	
千平方メートルを超え二千	八万九千円
平方メートル以内のもの	
ニチ平方メートルを超えて	十六万四千
万平方メートル以内のもの	
一万平方メートルを超え五	11+111万十

⊕ €	十日	⊕ €	十日
五万平方メートルを超える	四十五万八	五万平方メートルを超える	四十四万
万平方メートル以内のもの		万平方メートル以内のもの	

川~川 (盤)

|別表第十三(建築基準法に基づく中間検査申||別表第十三 (建築基準法に基づく中間検査申 請又は特定工程工事終了通知手

|数季

建築物

177 407 5	
中間検査を行う部分の床面	手数料の金
穂の合計	類
三十平方メートル以内のも	二万六千円
6	
三十平方メートルを超え百	三万二千円
平方メートル以内のもの	
百平方メートルを超え二百	五万円
平方メートル以内のもの	
二百平方メートルを超え五	11 万 1 千 円
百平方メートル以内のもの	
五百平方メートルを超え干	オアナチ田
平方メートル以内のもの	
千平方メートルを超え二千	八万六千円
平方メートル以内のもの	
二千平方メートルを超え一	十四万八千
万平方メートル以内のもの	田
一万平方メートルを超え五	11+1181
万平方メートル以内のもの	<u> 十日</u>
五万平方メートルを超える	四十万四千
₽ 6	田

の向上等に関する法律に基づ く建築物エネルギー消費性能 適合性判定手数料)

一 住宅の場合

	一件当たりの手数料の
	4 2 4 2 4 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
IXI	建築物エネルその他の
177 4/	
	向上計画に建
	築物のエネグ

川~川 (盤)

請又は特定工程工事終了通知手

羧萃)

建築物

	I
中間検査を行う部分の床面	手数料の金
穂の合計	篘
三十平方メートル以内のも	一万七千円
6	
三十平方メートルを超え百	11K14E
平方メートル以内のもの	
百平方メートルを超え二百	三万三千円
平方メートル以内のもの	
二百平方メートルを超え五	四万七千円
百平方メートル以内のもの	
五百平方メートルを超え干	六万二千円
平方メートル以内のもの	
千平方メートルを超え二千	八万四千円
平方メートル以内のもの	
ニキ平方メートルを超え一	十四万三千
万平方メートル以内のもの	E
一万平方メートルを超え五	二十万四千
万平方メートル以内のもの	E
五万平方メートルを超える	三十九万一
₽ 6	₩ <u>E</u>

別表第二十一(建築物のエネルギー消費性能別表第二十一(建築物のエネルギー消費性能 の向上等に関する法律に基づ く建築物エネルギー消費性能 適合性判定手数料)

ı	1 1
	半 一消費性能
	の向上等に関
	する法律第二
	十九条第三項
	各号に掲げる
	事項が記載さ
	れている場合
	の同項に規定
	する他の建築
	物において、
	当該建築物工
	ネルギー消費
	性語向上背面
	と当該他の建
	築物における
	建築物エネル
	半 - 消費性能
	確保計画が同
	様の方法によ
	り評価された
	ものである場
	<u>√□</u>
一戸建ての住宅	HHE IIINKH
	臣
共 住 総戸数が	HHE IIINKH
同一二月のも	
世に	
全 浴 戸 数が	·
<u> </u>	
2 五 三 以	5
F 6 20 6	
総戸数が	○ 1 万 2 十 万 3 1 十 万 3 1 十 万 3 1 十 万 3 1 十 万 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
五戸を超	
水十	5
F 6 % 6	
総戸数が	· N X T E T T T T T T T T
十戸を超	₩ <u>E</u>
W 11 + H	1
戸以下の	
1 1 1	1 1

₩	6			ĺ		
裟	戸数が	四万	\leq $+$ \pm	<u> </u>	11+1	R
1 1	十月月			+	十田	
	超え五					
	戸以下					
	₩6					
	戸数が		大千田		11 + K	111
	十戸を			1	$+ \mathbb{E}$	
	下のもえ百戸					
9						
	戸数が	<u> </u>	P T T T			万 万
	戸を超月巻さ		N + 11			7
		-			·	
	F 6 &					
8	-					
黎	戸数が	++	万三千	田	4+111	Ä
1 1	百戸を			-	九千円	
型	え 三 百					
IL	以下の					
₩	6					
	戸数が		万五千			万
	百戸を			1	11 11 11	
	- えるも					
6		1 1-	_		1 1 1-	17
	百平方面糟が		H.		<u>+ E</u> + 1 K	7
	<u> </u>			,	一旦	
	K 6 &	_				
6						
	面積が	1 18	< H E		十 五 万	五
	百平方				十田	
<u>~</u>	- ~ >	-				
*	超え于	-				
H	大 × –	-				
	小以内	1				
8	₩6					
	面積が	1111	\leq $+$ \equiv		T T F	囙
+	平方メ			ł	十田	

一 ← 爻 物		
超え二千		
平方メー		
下分以内		
626		
床面積が	八万六千円	111 + 12 111
11 + + +		<u>₩</u> 田
$\times - \leftarrow \neq$		
を超え五		
平平方 ×		
ート		
内のもの		
床面積が	+11K+HE	111 + < F
田午平方		九千円
\times $ \dot{\prec}$		
を超え一		
万平方メ		
- ト		
K 6 % 6		
	十七万三千円	
1 1 1 1 1 1		H十日
\times $ \dot{\neg}$		
を超え二		
万五十字		
大 メ ー ト		
も <u>0</u> 子 又 日 0		
	11.1 1 15 17.0	
	<u> </u>	<u>+ E</u> H + B K
	<u> </u>	11 14
ト マ マ マ カ 超		
<u> </u>		
<u> </u>	<u> </u>	
		1 617 1414
	2、**/***/こり切れて、**	
	↑り注ぎといる セ、長屋その他	
	。 ハフ「生三 羽外の住宅をいる	
大 同 ま こ こ こ こ の 表 に も	9住戸の部分をおりて、	
<u>三 この表にもまたまま</u>		
	は、これの	111 -0 %

二 非住宅建築物の場合

		11161	_	411	141	7001	~1		17,	1						
轉	絮	極		1	#	: ៕	た	2	6	#	羧	菜	6	④	額	
Η.	K	$\stackrel{\textstyle >}{\sim}$	锤	翐	極	Н			N	9	\oplus	6	鄵	ďП		
#	—	誤	κ	\vec{z}	升	_	建	翐	赘	6	锤	翐	極	6	#	\boxplus
曹(缸	拙	넳	實	紅	招	非	\boxplus	₩	語	例	誓	欠	6	Щ	渙
ূ 画·	ĮΠ	軐	垣	겍	11111111	画	欠	6	Щ	ዾ	λš	Н	鄵	糠	\supseteq	*
罪.	定	1H	N	世	翐	極	λš	Н	遲	糠	r	4€	N	唰.	⟨□	
行	ĸΩ	世	0	Н	℀	$\stackrel{\textstyle >}{\sim}$	(Н	遲	ψ	崇	定	N	긔	밅	以
涨:	赵	6	#	_	넳	貫	6	刮	知	#	涨	10	世	女	6	盐
枨	国	標	荊	盌	6	恒	λš	別	Ñ	定	粼	A	Н	甲	书	浜
0	$ \times $	尔	겍	糠	N	<u>=</u>	B	10	Щ	渙	κ	$\stackrel{\textstyle \prec}{\scriptstyle \sim}$	#	7	щ	0
			fo	10	浜	₩	<i>₩</i>	2	ĸΩ	0	—	渜	貫		魚	HU
			紙	1	+	弋	以	<u> </u>	ιJ	0	靯	架	舞	¥	*	₩
			巛	紙	111	严	表	N	X	2	昳	111111111111111111111111111111111111111	国	6	r	₩
			夲	单	ا	超	٢	<u>1</u> =	೨	°)	ŽŽ.	′	世	N	鄵	ďП
			Ţ	N	#	重	۴	Æ	10	率	粼	A	6			
			λš	밅	軟	HU	ďП				Н	$ \swarrow $	$\vec{\prec}$			
			¥	4	2	K					#	—	浜			
			褶	⟨□	0	<u>1¤'</u>					華	紅	揺			
			恒	N	斑	定					0	恒	4			
			þ	M	alpha	0					報	N	黑			
			锤	翐	極	\lesssim					fo	10	浜			
			¥	2	٢	•					争	紙	1 1			
			川	談	趣	翐					巛	紙	1			
			柳	Н	℀	\preceq					河	紙	111			
			#	_	渠	貫					中	0	撰			

				_																	
6	④!	額			锤	粼	狍		1	件	: 洲	た	Q	6	#	羧	菜	6	④!	額	
遲	∢□				Н	κ	$\vec{\sim}$	實	翐	極	Н			N	6	田	6	耀	⟨ □		
A	0	#	\oplus		#	_	渜	$^{\!$	$\vec{\prec}$	#	—	锤	粼	狍	0	建	谿	極	0	#	住
尔	6	Щ	怹		丰	靯	盌	넳	實	靯	罚罚	#	\boxplus	₩	超	₩	語	R	0	Щ	逩
郵	ψ	$\vec{\sim}$	*		興	⟨□	靯	垣	4	111111111111111111111111111111111111111	画	欠	0	Щ	逸	λš	Н	乘	糠	\mathbb{Z}	女
N	邺、	ĮΠ			壍	定	₩	<u>ال</u>	世	翐	極	ŽŽ.	Н	滑	糠	r	₩	N	灣	⟨□	
2	4	밅	以		行	ĸΩ	世	0	Н	κ	$\stackrel{\textstyle >}{\sim}$	(Н	弹	ψ	計	定	Ŋ	4	딮	以
世	*	6			鍬	赘	0	#	_	渜	實	6	包	知	#	涨	N	世	*	6	辈
Н	甲	平	洪		枨	国	類	靯	盌	6	恒	Şζ	泪	N	定	粼	極	Н	甲	书	法
#	N	щ	2		6	$ \times $	尔	괵	₩	IJ	噩	B	10	Щ	渙	$ \swarrow $	$\stackrel{\textstyle >}{\sim}$	#	N	щ	Ŋ
曹	盐	甲	40					fo	N	洴	無	B	2	νC	0	—	渠	曹	盐	甲	40
舞	¥	4	÷					無	111	+	日	以	<u> </u>	, J	6	靯	型型	靊	¥	4	Ę
画	0	p	æ,					₩	無	111	严	表	N	1 2	2	昳	111111111111111111111111111111111111111	画	6	r	£
趣	2	鄵.	⟨□					夲	Пþ	ίJ	超	٢	<u>1</u> =	೨	°)	λš	,	世	10	鄵.	(II
6								Ţ	10	#	严	۴	₩	10	鄵	粼	極	6			
<u> </u>								ŽŽ.	밅	華	HU	ďп				Н	$ \swarrow $	$\stackrel{\textstyle >}{\sim}$			
浜								¥	٢	2	N					#	_	浜			
型型								滑	⟨□	6	<u>1</u>					車	缸	笳			
4								声	IJ	海	定					6	叵	4			
= *								f	10	abla	6					恭	N	噩			
涆								锤	翐	A	N					f	N	洪			
11								K	2	٢	′					律	無	1			
1								沠	談	世	翐					巛	無	1			
111								狍	Н	$ \swarrow $	$\stackrel{\textstyle >}{\sim}$					酒	無	111			
海								#	_	浜	曹					中	6	雉			
	1			1 1	•			ı				ı				ı			•		

	性能向上		定に基	
	計画と当		づき定	
	該他の建		められ	
	築物にお		た簡易	
	ける建築		な評価	
	物エネル		方法で	
	ギー消費		あって	
	性能確保		発量が	
	計画が同		別に定	
	様の方法		める方	
	により評		法によ	
	価された		で評価	
	ものであ		された	
	る場合		もので	
			ある場	
			⟨□	
(盤)	(盤)	(盤)	(盤)	(盤)

編考

三複合建築物の場合

	性能向上		定に基	
	計画と当		づき定	
	該他の建		められ	
	築物にお		た簡易	
	ける建築		な評価	
	物エネル		方法で	
	半一消費		あって	
	性能確保		知事が	
	計画が同		別に河	
	様の方法		める方	
	により評		法によ	
	価された		の評価	
	ものであ		された	
	る場合		もので	
			ある場	
			ďп	
(盤)	(盤)	(盤)	(盤)	(盤)

編考

じて算定する。 おける床面積の区分及び用途に応る建築物については、非住宅部分に 住宅部分及び非住宅部分を有す

一件当たりの手数料の金額 住宅部分に応じたこの表の一の表に掲 げる手数料及び非住宅部分に応じた二 の表に掲げる手数料の金額を合算した

備考 この表において「複合建築物」と は、住宅部分及び非住宅部分を有する 建築物をいう。

別表第二十二(建築物のエネルギー消費性能)別表第二十二 (建築物のエネルギー消費性能 の向上等に関する法律に基づ く建築物エネルギー消費性能 適合性変更判定手数料)

住宅の場合

一件当たりの手数料の 金額 建築物エネルその他の ギー消費性能場合 向上計画に建 築物のエネル ギー消費性能 の向上等に関 する法律第二 十九条第三項 各号に掲げる 事項が記載さ れている場合 M $\langle x \rangle$ の同項に規定 する他の建築 物において、 当該建築物工 ネルギー消費 性能向上計画 と当該他の建 築物における 建築物エネル ギー消費性能 確保計画が同 様の方法によ り評価された

の向上等に関する法律に基づ く建築物エネルギー消費性能 適合性変更判定手数料)

		ものである場	
	での 住宅	<u>们十日</u>	<u>用</u> 万八十
任 同 共 前 万 百 年 1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	1 IT 6 +5	III HE	E K<+
# 公	F のもの え エ 戸 を 超 総 戸 数 が	★ 中 E	E II K < +
	ト (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	NE	五五四十
		一万九十日	E T K K H
	十戸以下を超え五二十五戸	II 万九十日	+1 KE
	S S S S S S S S S S	HIVII中田	+ 1 1 1 1 1
		< R II + E	式 卡 円 二 十 一 万
			<u> </u>

	₽ <u></u>		
	総戸数が	+1848	111 + 111 12
	三百戸を		H H H E
	超えるも		
	6		
<u></u> 米	床面積が。	1/ \L F	五万九千
	三百平方		E
部	$\lambda - \overline{\gamma}$	-	
	以 内 ろ し し に		
7	0 7 7 8 3		
			13.15. 3.41
	床面積が		— 七 万 九 千
	三百平方		田
	$x - \tau \neq$		
	を超え于		
	平方メー		
	ト 小 以 内		
	6 to 6		
	床面積が	一万七十日	十万円
	干平方义	-	
	$- \leftarrow \neq \forall$	-	
	超え二千	-	
	平方メー	-	
	卜小以内		
	6 to 6		
	床面積が	五万二千円	十六万円
	二十平方	-	
	$\lambda - \overline{\gamma}$	-	
	を超え五	-	
	干平方义		
	- トル以 千平方×		
	<u> 内のもの</u> - トル以	< 下二十円	11+ 12 <
	<u> </u>		HE 11+K<
	五 干 平 方 床 面 積 が 内 の も の ー ト ル 以		
	X — ト ル 五 年 平 方 所 面 顴 が 日 の も の		
	を超えてより、五千平方とを関係である。		
	五年 女 女 田 女 女 石 本 石 本 子 子 子 子 上 上 子 子 子 子 子 か 御 り か か か り ひ り ひ り ひ り ひ り ひ り ひ り ひ り ひ		
	を超えてより、五千平方とを関係である。		<u>+E</u> □+¤≺

1 2 4 4		九千円
$\chi - \overline{\gamma}$		
を超え二		
万五十年		
ガメー ム		
小以内の		
₩ C		
床面積が	十川万田	ニナれ万
11 12 14 14		11十日
平方メー		
トルを超		
えるもの		
		
<u> 1 </u>	ないて「共同生	出金等」と
は、共同住宅	1、長屋その他	6 戸建
ての住宅以料	外の住宅をいる	<u> </u>
<u> 11 Nの表だせ</u>	827「任戸部	分」とは、

- 共同住宅等の住戸の部分をいう。|| この表において「住戸部分」とは、
- の他の住戸部分以外の部分をいう。 共同住宅等の共用廊下、共用階段を三 この表において「共用部分」とは、
- れ次に定める金額とする。 に掲げる場合の区分に応じ、それぞ回 共同住宅等の手数料の金額は、次
 - た手数料の金額を合算した金額額及び共用部分の床面積に応じる場合 住戸部分の手数料の金一次エネルギー消費量を算定すす 住戸部分及び共用部分の設計

二 非住宅建築物の場合

判定をに建築物が工場等である場合適合性向上計画分の用途が工場等以外費性能消費性能非住宅部宅部分の用途が工場等以外デー消ネルギー建築物の建築物の非住工ネル建築物工 その他の場合建築物 一件当たりの手数料の金額

判定をに建築物が工場等である場合適合性向上計画分の用途が工場等以外費性能消費性能非住宅部宅部分の用途ギー消ネルギー 建築物の 建築物の非住工ネル 建築物工 その他の場合

行う建っ	O H 14-	۷.	(⊔ :	垣屋	N	ল'	ΉJ k.	ַ נ	<u>.</u>		X	11-	۲C	##	5	Н	$^{\!$	7	(ᆸ	軍隊	N	<u></u>	111	NJ	<u>л</u> і	L)	式
築物の																		浜											
床面積は																		8											
の区分-																		77											
	する法												0		. ~! ~			洪											
	第11十																	<u>※</u> 十											
	<u>徐 第 11]</u>																	111											
	<u> 各 中</u> に																	<u>ارا</u> ا											
	げる事									\° _	+4//	ŹΠ						~ 									340	47	Áπ
	が記載さる。			70	,,,			水 5										載				, (0			水				
	れてい		<i>√</i> □					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·												/ π					<u></u>				
	場合の							祖 恕										9							靯				
	該建築							恒工										継							恒				
	工 木 ル							느 IJᆵ										7							<u>ار</u>				
	一消費							る注										車							20				
	語回上							無1										4							無				
l.	囲の変ーー・							無										変							無				
	に係る							無 1										10							無				
	曳に規	1						6 #										猫							6				
٦	する他	6						にま										割							N				
#	建築物	. Z					7	机焦	Į							海	翐	A	7					7	HU	定			
ź	おいて	,					£	Z 2) ~							1 Ç	2	٢	,					&	2	7			
þ	当該建	鍬					*!	簡点	3							川	蒸	世	辮					*	絙	展			
Ę	物工水	<u> </u>					74	評年	₫							A	Н	κ	ゾ					<i>Z</i>	1111111	無			
3	于一消	華					大	法で	,							#	_	誤	葺					户	洪	r			
j	性能向	14					₩	0 h	,							靯	淵	恒	긔					Т	5	Y			
11	計画と	汌					报.	# %	2							111111111111111111111111111111111111111	国	Ŋ	沠					知	#	Ž			
11	液他の	實					別	にま	Į							談	田	6	奪					別	N	定			
14	築物に	£					S	るも	?							翐	極	N	R					B	10	书			
1	ける建	翐					浜	だ _て	6							t	10	世	辮					洪	N	щ			
1	物工术	<u> </u>					5	評年	₫							独	Н	κ	ブ					Q	1111111	匍			
3	于一消	曹					HU	れゃ	ر							#	_	渠	華					tu	£	た			
į	性能確	咪					₩)	6 K	,							靯	架	舞	昳					æ	6	p			
11	計画が	<u>1</u> =					Ðŧ	る世								111111111111111111111111111111111111111	画	33	ĪĒ					£	N	犁			
1	様の方	洪					ďП									桊	6	书	洪					ďΠ					
2	により	1														N	낵	2	辈										
į	価され	*														甲	40	Z	な										
7	もので	Æ														æ	0	r	Ð										
3	る場合															N	準	√□											

(盤) (盤) (盤) (盤) (盤)

備考

建築物エネルギー消費性能向上計画 に建築物のエネルギー消費性能の向上 等に関する法律<u>第二十九条第三項各号</u> に掲げる事項が記載されている場合の 当該建築物エネルギー消費性能向上計 面の変更に除る同項に規定する他の建 築物において、当該建築物エネルギー消 勇性能向上計画と当該他の建築物にお ける建築物エネルギー消費性能確保計 面が同様の方法により評価されたもの である場合以外の場合における工場等 及び工場等以外の用途を有する建築物 の手数料の金額は、次に掲げる場合の区 分に応じ、それぞれ汝に定める金額とす s ou

__~□ (魯)

三 複合建築物の場合

一件当たりの手数料の金額

住宅部分に応じたこの表の一の表に掲 げる手数料及び非住宅部分に応じた二 の表に掲げる手数料の金額を合算した

備考 この表において「複合建築物」と は、住宅部分及び非住宅部分を有する 建築物をいう。

別表第二十三(建築物のエネルギー消費性能別表第二十三 (建築物のエネルギー消費性能 の向上等に関する法律に基づ く建築物エネルギー消費性能 適合性判定に係る軽微な変更 に該当する旨の証明書交付申

(盤) (盤) (盤) (盤) (盤)

備を

建築物エネルギー消費性能向上 計画に建築物のエネルギー消費性 能の向上等に関する法律第三十四 条第三項各号に掲げる事項が記載 されている場合の当該建築物エネ ルギー消費性能向上計画の変更に 係る同項に規定する他の建築物に おいて、当該建築物エネルギー消費 性能向上計画と当該他の建築物に おける建築物エネルギー消費性能 確保計画が同様の方法により評価 されたものである場合以外の場合 における工場等及び工場等以外の 用途を有する建築物の手数料の金 額は、次に掲げる場合の区分に応 じ、それぞれ次に定める金額とす $^{\circ}$

二 住宅部分及び非住宅部分を有す る建築物については、非住宅部分に おける床面積の区分及び用途に応 じて算定する。

> の向上等に関する法律に基づ く建築物エネルギー消費性能 適合性判定に係る軽微な変更 に該当する旨の証明書交付申

<u> </u>	日先の場合	
	因农	手数料の金額一件当たりの
1 正 徳	での住名	九十日
共 田	総戸数が一戸のも	九千円
	6	
祖籍	総戸数が一戸を超	万九千円
安 夕	え玉戸以下のもの	
鎌	総戸数が五戸を超	二万七千円
	え ナ 戸 以 下 の も の	
	総戸数が十戸を超	三万八千円
	<u> </u>	
ļ.	P6	
	を超え五十戸以下総戸数が二十五戸	H K H F L
	のもの を超え 王十戸 以下	
	総戸数が五十戸を90年の	7 lb lb
	超え百戸以下のも終月巻な五十戸を	
	6	
	総戸数が百戸を超	+ K L F F E
	え二百戸以下のも	
	6	
	総戸数が二百戸を	十四万三十日
	超え三百戸以下の	
	₽	
	総戸数が三百戸を	十六万七千円
	超えるもの	
#	床面積が三百平方	二万九千円
田	メートル以内のも	
辯	6	
农	床面積が三百平方	三万九千円
	平方メートル以内メートルを超え干	
	<u>6 % 6</u> H	
	床面積が干平方メのもの	<u> </u>
	- トルを超え二十月百種な 平 平 ガ ブ	
	平方メートル以内	
	<u>0 % 0</u>	
	床面積が二千平方。	<u> </u>
i l		1 —

1	Ī
メートルを超え五	
干平方メートル以	
<u> </u>	
床面積が五千平方	十万四千円
メートルを超え一	
万平方メートル以	
<u> </u>	
床面積が一万平方	十二万四千円
メートルを超え二	
万五千平方メート	
<u> </u>	
床面積が二万五千	十四万六千円
平方メートルを超	
<u> </u>	

備考

- ての住宅以外の住宅をいう。は、共同住宅、長屋その他の一戸建一」の表において「共同住宅等」と
- 共同住宅等の住戸の部分をいう。 「この表において「住戸部分」とは、
- の他の住戸部分以外の部分をいう。 共同住宅等の共用廊下、共用階段を三 この表において「共用部分」とは、
- <u>れ次に定める金額とする。</u> に掲げる場合の区分に応じ、それぞ回 共同住宅等の手数料の金額は、次
 - た手数料の金額を合算した金額額及び共用部分の床面積に応じる場合 住戸部分の手数料の金一次エネルギー消費量を算定すて 住戸部分及び共用部分の設計
 - 戸部分の手数料の金額―消費量を算定しない場合□ 共用部分の設計一次エネルギ

二 非住宅建築物の場合

建築物工术	一件当たりの手数料の金額							
ルギー消費		()	生)					
性能適合性	(盤)	(.XL)	(:MT)					
判定を行う		(と)	(盤)					

建築物工术	一件当たりの手数料の金額							
ルギー消費		()	2)					
性能適合性	(盤)	(:Mt)	(.Xtr)					
判定を行う		(盤)	(盤)					

建築物の床

(略)面積の区分

(盤)

(盤)

(盤)

面積の区分建築物の床

(盤)

(盤)

(盤)

(盤)

電	
~ (盤)	~ (2000 (200) (2000 (200) (2000 (2000 (2000 (2000 (2000 (2000 (2000 (200) (2000 (2000 (2000 (200) (2000 (2000 (200) (2000 (2000 (200) (2000 (200) (2000 (2000 (200) (2000 (2000 (200) (2000 (2000 (200) (2000 (200) (2000 (200) (2000 (200) (2000 (200) (2000 (200) (2000 (200) (2000 (200) (2000 (200) (2000 (200) (2000)
	四 住宅部分及び非住宅部分を有す
	る建築物については、非住宅部分に
	おける床面積の区分及び用途に広
	じて算定する。_
三複合建築物の場合	
一件当たりの手数料の金額	
住宅部分に応じたこの表の一の表に掲	
げる手数料及び非住宅部分に応じた二	
の表に掲げる手数料の金額を合算した。	
節のからは、ためのでは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	
備考 この表において「複合建築物」と	
は、住宅部分及び非住宅部分を有する何ま、この言いおいて「私合産祭事」と	
建築物をいう。	
100 000 20	別表第二十四(建築物のエネルギー消費性能
の向上等に関する法律に基づる者のニュバジー消費を合	の向上等に関する法律に基づる表象のコミバミーが事が自
いと 大建築物エネルギー消費性能	R 二十回 R M H 青 H 女 力 / 人 建 築 物 エ ネ ル ギ ー 消 費 性 能
向上計画認定申請手数於)	向上計画器定申請手数料)
世紀の場合	世紀の場合
一棟当たりの手数料の金額	一棟当たりの手数料の金額
申 に 及 その 色の 場 合	申 に 保 その 色の 場 合
る建築物申請に係上記以外	る建築物申請に係上記以外
エネルギる連築物の評価方	エネルギる連築物の評価方
- 消費性エネルギ法により	- 消費性 エネルギ法 により
能向上計一消費性評価され	能向上計一消費性評価され
画が、建館向上計たもので	画が、建館向上計たもので
区分(築物の工画が、建ある場合)	区分築物の工画が、建ある場合
_ 、	- ベクギー
消費性能 木 グ ボー	消費性能 ネルギー
の向上等消費性能	の向上等背割性語
に関するの向上等	
法律第三に関する	法律 第三に関する
十条第一	十日条第、法律第三
頃各号に十条第一	1 頃 各 中 十 用 朱 箫
掲げる基団第一号	に 報 方

	準又はこ	の規定に				基準又は	号の規定	
	れと同等	基づき定				これと同	に基づき	
	の基準に	められた				等の基準	定められ	
	適合する	簡易な評				に適合す	た簡易な	
	ものとし	価方法で				るものと	評価方法	
	て知事が	あって知				して知事	であって	
	別に定め	事が別に				が別に定	知事が別	
	る方法に						に定める	
	より技術						方法によ	
	的審査を						り評価さ	
	受けたも					を受けた		
	のである					ものであ		
	場 台	1 (V					√□	
(盤)	(盤)	(盤)	(盤)	((盤)	(盤)	(
編		· — /		籠	(\ <u> </u>	
	建築物の			-		建築物の	<u></u> "	
	1	! ! りの手数:	料の金額			1	! 	科の金額
		んの包					さんの割	
		申請に係					申請に係	
		る建築物					、る建築物	
		! H 木 丿 并					エネルギ	
		一消費性					一消費性	
		縮向上計					1 能向上計	
		画が、建画が、連					画が、建画が、建	
		- 築物のエ Im ス					- 築物のエ 同 / の	
		ネルギー					ネルギー	
		消費性能 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /					消費性能	
M A	に関する			<u> × </u>	尔		6 但 山 準	
		に関する		_	` ` `		に関する	
		法律第三つ。					※ 法律第三	-
	頃各号に						, 十 五 条 第	
		頃第一号					1	-
		の規定に					<u>守</u> の規定	
		、基づき定の表页に					に基づきいまるま	
		められたまっまる					定められいまく。	
		踊易な評					た簡易な	
		あって知価方法で					評価方法	
							これまらりて	
	男に定め	事が別に	l			方男にま	知事が別	

		る方法に	定める方	
		より技術	法により	
		的審査を	評価され	
		受けたも	たもので	
		のである	ある場合	
		場合		
(盤)	(盤)	(盤)	(盤)	(盤)
 	(を))		

三複合建築物の場合

一棟当たりの手数料の金額

領の表に掲げる手数料の金額を合算したげる手数料及び非住宅部分に応じた二住宅部分に応じたことを部分に応じたこの表の一の表に掲

建築物をいう。
は、住宅部分及び非住宅部分を有する
備考 この表において「複合建築物」と

		める方法	に定める	
		により技	方法によ	
		術的審査	り評価さ	
		を受けた	れたもの	
		ものであ	である場	
		る場合	√ □	
(盤)	(器)	(器)	(智)	(盤)
備考	(盤)			

三複合建築物の場合

一棟当たりの手数料の金額

れぞれ次に定める金額を加算する。申請対象部分が次に掲げる場合には、そ

- る一戸建ての住宅の手数料の金額有する場合 この表の一の表に掲げ一一戸の住宅の用途に供する部分を
- ロの金額を合算した金額ギー消費量を算定する場合 イ及び有し、共用部分の誘導設計一次エネル」 共同住宅等の用途に供する部分を
 - 住戸部分の手数料の金額表の一の表に掲げる共同住宅等の「生行部分の総戸数に応じたこの「生物などのは、
 - 共用部分の手数料の金額表の一の表に掲げる共同住宅等の日 共用部分の床面積に応じたこの
- <u>イの金額</u> ボー消費量を算定しない場合 前号有し、共用部分の誘導設計一次エネル 三 共同住宅等の用途に供する部分を
- 金額 表に掲げる非住宅建築物の手数料の部分の床面積に応じたこの表の二のする場合 住宅以外の用途に供する部分を有回 住宅以外の用途に供する

備を

は、住宅の用途及び住宅以外の用途」この表において「複合建築物」と

に供する建築物をいう。 □ この表において「共同住宅等」と は、共同住宅、長屋その他の一戸建 ての住宅以外の住宅をいう。 三 この表において「住戸部分」とは、 共同住宅等の住戸の部分をいう。 回 この表において「共用部分」とは、 共同住宅等の共用廊下、共用階段を の他の住戸部分以外の部分をいう。

別表第二十五(建築物のエネルギー消費性能別表第二十五 (建築物のエネルギー消費性能 の向上等に関する法律に基づ く建築物エネルギー消費性能 向上計画変更認定申請手数料)

住宅の場合

一棟当たりの手数料の金額 申請に係 その他の場合 る建築物申請に係上記以外 エネルギる建築物の評価方 - 消費性エネルギ法により 能向上計「消費性評価され 画が、建館向上計たもので 築物のエ面が、建ある場合 ネルギー築物のエ 消費性能ネルギー の向上等消費性能 に関するの向上等 法律第三に関する 区分 十条第一法律 第三 項各号に十条第一 掲げる基面第一号 準又はこの規定に れと同等基づき定 の基準にめられた 適合する簡易な評

ものとし価方法で

て知事があって知

別に定め事が別に

る方法に定める方

より技術法により

向上計画変更認定申請手数料)

の向上等に関する法律に基づ

く建築物エネルギー消費性能

一住宅の場合 一棟当たりの手数料の金額 申請に係 その他の場合 る建築物甲請に係工記以外 エネルギる建築物の評価方 |消費性 エネルギ 法により 能向上計「消費性評価され 画が、建館向上計だもので 築物のエ面が、建ある場合 ネルギー築物のエ 消費性能ネルギー の向上等消費性能 に関するの向上等 法律第三に関する M A 十五条第 法律 第三 一項各号十五条第 に掲げる「項第一 基準文は引の規定 これと同に基づき 等の基準定められ に適合すた簡易な るものと評価方法 して知事であって が別に定知事が別 める方法に定める により技方法によ

	的審查を	評価され	
	受けたも	たもので	
	のである	ある場合	
	場合		
(器)	(盤)	(盤)	(盤)
備考 (略)		
二 非住宅	建築物の	場合	
	一棟当た	りの手数	料の金額
	申請に係	その街	の場合
	る建築物	申請に係	上記以外
	エネルギ	る建築物	の評価方
	- 消費性	エネルギ	法により
	指向上計	一消數性	評価され
	面が、建	贈向上計	たもので
		面が、建	ある場合
	ネルギー	築物のエ	
	消費性能		
	の向上等	消費性能	
	に関する	の向上等	
	法律第三	に関する	
	十条第一	法律第三	
区分	頃各号に	十条第一	
	掲げる基		
	準又はこ		
		基づき定	
		められた	
	適合する		
	ものとし		
	て知事が		
	別に定め		
	る方法に		
	より技術		
	的審査を		
	受けたも		
	のである	ある場合	
1	場合		
(盤)(盤)	(盤)	(盤)	(盤)
備考 (略)		

三 複合建築物の場合

	縒	: 分	碘	查	Q	計	無	HU				
	4%	应	け	4	¥	*	₩	6				
	ní	6	p	₽¢	r	₩	10	準				
	K	鄵	ďП		ĮΠ							
(盤)		(\(\)	2000年)			(\$	2 ((\(\)	2000年)	
編考	(盤)											
11 #3	仕宅建	鍬:	A	S #	後 <	ĺΠ						
	1	華	計	た	9	6	#	燅	菜	6	金	額
	#	罪	۲J	來		N	6	田	0	滑	⟨□	
	K	世	翐	極	#	辈	N N	棌	Ŧ	밀	以	女
	Н	$ \swarrow $	$\stackrel{\textstyle \prec}{\scriptstyle \sim}$	千	N	鲥	翐	A	0	壯	用	九
	_	渜	曹	紅	Н	K	$\stackrel{\textstyle >}{\sim}$	#	洪	N	Ц	2
	4m 717.	恒	4	11111111	—	渜	實	紅	盐	角	HU	£
	朣	Ŕ	′	世	架	叵	4	111111111111111111111111111111111111111	た	₩	0	r
	栩	極	6	H	画	23	,	世	Ð,	10	鄵.	ĮΠ
		<u> </u>										
		曹										
		恒										
		噩										
		. 世										
		H										
		, 項						無				
		超						 •				
		標										
		~ 7										
		ж О										
		層										
		₩ ₩										
		別て										
		8 8										
		. 4										
		宏。										
	Ú.	-Щ	ſν	ΝΨ	~ `	ifii¤	Ψ	7) ∪				

を受けたれたもの ものであである場

ďΠ

(盤)

(盤)

る場合

(盤)

(盤)(盤)

備考

(盤)

三複合建築物の場合

一棟当たりの手数料の金額

領の表に掲げる手数料の金額を合算したげる手数料及び非住宅部分に応じた二住宅部分に応じた二住宅部分に応じたこ

建築物をいう。
は、住宅部分及び非住宅部分を有する
備考 この表において「複合建築物」と

一棟当たりの手数料の金額

れぞれ次に定める金額を加算する。申請対象部分が次に掲げる場合には、そ

- る一戸建ての住宅の手数料の金額有する場合 この表の一の表に掲げ一一戸の住宅の用途に供する部分を
- □の金額を合算した金額ボー消費量を算定する場合 / 及び有し、共用部分の誘導設計一次エネル其同住宅等の用途に供する部分を
 - 住戸部分の手数料の金額表の一の表に掲げる共同住宅等の人 住戸部分の総戸数に応じたこの
 - 共用部分の手数料の金額表の一の表に掲げる共同住宅等の日 共用部分の床面積に応じたこの
- <u>イの金額</u> ギー消費量を算定しない場合 前号有し、共用部分の誘導設計一次エネル 三 共同住宅等の用途に供する部分を
- 金額 表に掲げる非住宅建築物の手数料の部分の床面積に応じたこの表の二のする場合 住宅以外の用途に供する部分を有回

編 考

- に供する建築物をいう。は、住宅の用途及び住宅以外の用途」、この表において「複合建築物」と
- ての住宅以外の住宅をいう。
 は、共同住宅、長屋その他の一戸建一、この表において「共同住宅等」と
- 共同住宅等の住戸の部分をいう。 三 この表において「住戸部分」とは、
- の他の住戸部分以外の部分をいう。 共同住宅等の共用廊下、共用階段を図 この表において「共用部分」とは、

号 外 別表第二十六(建築物のエネルギー消費性能 の向上等に関する法律に基づ く建築物エネルギー消費性能 に係る認定申請手数料) | 住宅の場合 一件当たりの手数料の金額 申請に係 その他の場合 る建築物申請に係上記以外 が、建築る建築物の評価方 物のエネの共用部法により ルギー消分以外の評価され 費性能の部分が、たもので 向上等に建築物のある場合 関する法エネルギ 律第二条「消費性 第一項第能の向上 三号に規等に関す 定する基る法律第 $\overline{\mathbb{A}}$ 準又はこ 二条第一

	れと	回拳	項第	111 🕪		
	の基	準に	の規	定に		
	適合	する	を変り	き定		
	₩ C	ムし	80	れた		
	て知	事が	簡彫	な評		
	別に	定め	佃力	法で		
	る方	法に	₩ C	て独		
	より	技術	事が	記に		
		査を				
		たも				
		ある				
	影合	_	-	6 K		
			ある	場合		
一戸建ての	五十	田	1 円	\prec \vdash	三万六	+
			日子	E	八百円	-
共住一棟の	五十	田	1 万	\prec \vdash	三万六	+
回一年龍口			日子	E	八百円	-
住部数が一						
宅の国分						
<u>争</u>						

	ı											
1種の	1	円	Ш	田	111	円	用	+	4	R	E	+
田淵田					111	旧	田		王	Ш	E	
数が一												
戸を超												
え玉戸												
以下の												
₩ G												
	1	R	7	Ή-	Ŧ.	R	#	1 1	+	R	囙	+
田盂口						E				垣		
数が玉												
戸を超												
え十戸												
以下の												
₽ <u></u>												
1 棟 6	11	R	\prec	+	7	R	111	+	+	囙	R	7
中指瓦												
数が十												
戸を超												
え 二 十												
五戸以												
F 6 %												
6												
棟の	田	万	\leq	+	+	1	R	+	1 1	+	1	万
中間口	田	Ш	E		回	E	-		+	7	Ш	E
数が二												
十五斤												
を超え												
用十匹	ı											
以下の												
以下の	<u>\</u>	五	1 <	+	+	1<	万	<u> </u>	111	+	为	111
<u> もの</u> 以下の												
中 の の D												
世												
上												
超 												
	Y	恒	E		+	垣	比		+	<u>₹</u>	回	E

Ī	数が百	1		<u>_</u>					1
	声を超								
	えこ百月を表								
	戸以下								
	0 20 0								
	種の	1.11	ID 111	111 _		تے	머그	_ 111	7
	中								
	数が二	11 1	Im II	11 1	7 1111		$\frac{\mathbb{E}}{\mathbb{E}}$	1	1
	百戸を								
	超え三百万多								
	百戸以								
	F 0 30								
	6								
	1 葉 6	+<	万五	111 -	- H	Й Д	{ +	- 111	万 万
	中體旦				<u> </u>				
	数が三				. –		<u>=</u>		
	百戸を								
	超える								
	₩ <u></u>								
#	床面積	1 K	田田	+	R	4	+ 1	万.	7
田	が三百			+ +	日	E	# ==	· III	$\overline{\mathbb{T}}$
幸	平方メ								
农	- ~ >								
	以内の								
	₽ <u></u>								
	床面積	1 K	$\leq +$	+1	H FQ	Ħ	+ 1	R.	五
	湖三百	凹百	田	₩ H	山口	E	H H	IIII	T
	平方メ								
	- ~ >								
	を超え								
	干平方								
	\prec $ \prec$	1							
	小以内								
	646								
	床面積	11 K	\prec \vdash	++	N K	囙	+ +	H.	凹
	放于平	九百	田	# 1	山口	E	H H	HIII	\mathbb{T}
	15	1							
	方メー					ı			I
	トルをオメー	 - 							

1 1	<u> </u>
	<u>X — Z</u>
	<u> </u>
	6 4 6
	K 面積 ハ 万 六 千 三 十 万 三 三 十 万 三
	が コ 十 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日
	子七人
	<u> </u>
	を超え
	H 什 讲
	₩ <i>x</i> −
	<u> </u>
	K 6 70
	6
	床面積 十三万七 三十八万 三十八万
	於五千千四百円 九千百円 九千百円
	<u>- ~ \(\delta \) </u>
	を 超 え
	\tau \times -
	<u>~ > 3</u>
	₹ 6 p
	6
	床面積十七万三四十六万四十六万
	於一万千六百円五千百円五千百円
	F K X
	<u>- 4 3</u>
	<u> を 超 </u>
	十
	<u>x - 4</u>
	<u> </u>
	0 20 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	<u> </u>
	<u> </u>
	H 十 片
	ガメ ー
	<u> </u>

<u>もの</u> 超える
霍
→ この表において「共同任宅等」 →
は、共同住宅、長屋その他の一戸建
ての住宅以外の住宅をいう。
$\overline{\square}$
共同住宅等の住戸の部分をいう。
三 この表において「共用部分」とは、
共同住宅等の共用廊下、共用階段を
の他の住戸部分以外の部分をいう。
回 共同住宅等の建築物全体の認定
申請をする場合又は共同住宅等の
住戸部分及び共同住宅等の建築物
全体の認定申請をする場合の手数
料の金額は、次に掲げる場合の区分
に応じ、それぞれ次に定める金額と
する。この場合において、この表中
「申請戸数」とあるのは、「総戸数
と読み替えるものとする。
イ 住戸部分及び共用部分の設計
一次エネルギー消費量を算定す
る場合 住戸部分の手数料の金
額及び共用部分の床面積に応じ
た手数料の金額を合算した金額
ロ 共用部分の設計一次エネルギ
消費量を算定しない場合 仕
戸部分の手数料の金額

二 非住宅建築物の場合

11 W 47	三変等中のまる
	一件当たりの手数料の金額
	申請に係 その他の場合
	る建築物申請に係上記以外
	が、建築る建築物の評価方
	物のエネが、建築法により
	ルギー消物のエネ評価され
	費性能のルギー消たもので
	向上等に費性能のある場合
	関する法向上等に
	律第二条関する法

	第一項第	律第二条	
	三号に規		
	定する基	三号の規	
	準又はこ	定に基づ	
	れと同等	き定めら	
	の基準に	れた簡易	
	適合する	な評価方	
	ものとし	法であっ	
	て知事が	て知事が	
	別に定め		
	る方法に	る方法に	
	より技術		
	的審查を		
	受けたも		
	のである	影 包	
	<u> </u>		
非住床面積	一万百円		
宅建が三百		人百円	<u>=</u> 火十七四
<u> </u>			E
`			
<u>もの</u> 以内の			
	一万八千	11155	111.1 1110
		千九百円 十二万回	
学 大 大 山 山 山			
- ~ >			
を超え			
十字七			
~			
<u> </u>			
6 20 6			
<u> </u>	ニアハチ	十五万七	日十 1 万
		十三百円	
方メー			E
下			
超え二			
千 平 方			
х – –			
<u> </u>			
	•	•	

6 4 6
床面積八万六千二十五万五十九万
然二十八百日 四十七百二十六百
H E E
<u>- ~ \(\delta \) </u>
を超え
田午計
\(\tau\chi \chi \)
<u> </u>
<u> </u>
<u>e</u>
床面積十三万七三十三万七十三万
於五千千四百円 二十六百円
F T E
_ '
を 超 ス
₩ x −
<u> </u>
K 6 %
6
於一万千六百円 九千八百二千九百
ドヤメ E E
~
<u>と超え</u>
开
<u>x - 4</u>
<u> </u>
0 20 0 2 21 7
床面積三十一万四十六万九十八万万十八万万分
<u> </u>
HHH KINCHIT KIT BINN
<u>下 </u>
超える
₩ <u>6</u>
-

築物をいう。 とは、住宅以外の用途のみに供する建

三複合建築物の場合

1.1 44 /- MX 4/11	2, 3, 11, 1
M &	一件当たりの手数料の金
	巍
複合建築物全	次に掲げる場合の区分に
体の認定申請	応じ、それぞれ次に定める
をする場合又	額。この場合において、こ
は複合建築物	の表の一の表中「申請戸
の住戸の部分	数」とあるのは、「総戸数」
及び複合建築	と読み替えるものとする。
物全体の認定	
申請をする場	
<u> </u>	
	<u> </u>
	供する部分を有する場
	<u>合 </u>
	<u> </u>
	掲げる一戸建ての住
	ロ 住宅以外の用途に
	供する部分の床面積
	に応じたこの表の二
	の表に掲げる非住宅
	建築物の手数料の金
	数 数
	共同任宅等の用後に
	築物であって、住戸部分供する部分を有する建
	及び共用部分の設計一類やであって、住戸者へ
	次エネルギー消費量を及てま用き名の記言一
	<u> </u>
	ハまでの金額を合算し ほうざらずら くだい
	<u> </u>
	<u>イ</u> 住戸部分の総戸数 - ^大 巻
	に応じたこの表の一つ。信用者ろの絵画教
	の表に掲げる共同住には、
	全等の住戸部分の手の表においるまには
	だ 本に 2 4 A V 2 III、

	数料の金額
	ロ 共用部分の床面積
	に応じたこの表の一
	の表に掲げる共同住
	宅等の共用部分の手
	数料の金額
	へ 住宅以外の用途に
	供する部分の床面積
	に応じたこの表の二
	の表に掲げる非住宅
	建築物の手数料の金
)
	三、共同住宅等の用途に
	供する部分を有する建
	築物であって、共用部分
	の設計一次エネルギー
	消費量を算定しない場
	複合建築物の形態に応じ額を合算した額
	て、この表の一の表に掲げるを象徴の开覧に応じ
	る一戸建ての住宅の手数で、このまの一の話におい
る場合	料の金額又は認定申請を入った数)。
), A, A	する住戸部分の戸数に応料る金額では
	じた共同住宅等の住戸部・スクア語グロア教の内
	分の手数料の金額
<u> </u>	THE MAN STATE
	において「複合建築物」と
ば、世紀の	の用途及び住宅以外の用途
ご無する。	世 <u>継 物 か い で 。</u>
<u> 11 n の 報 7</u>	において「共同住宅等」と
は、米同な	住宅、長屋その他の一戸建
<u>ト</u> 6 年 枡 3	以外の住宅をいう。
<u>川 いの戦</u>	において「住戸部分」とは、
<u> </u>	等の住戸の部分をいう。
<u> 国 いの戦</u>	において「共用部分」とは、
	等の共用廊下、共用階段を
<u> 8角の年</u>	戸部分以外の部分をいう。
別表第二十七	(盤)

別表第二十六 (略)

温 宝

各号に定める日から施行する。この条例は、今和七年四月一日から施行する。ただし、汝の各号に掲げる規定は、当該

- 一 別表第一第八十五号の項から第八十七号の項までの改正規定 令和七年三月一日
- 二 別表第一第八号の項の改正規定 令和七年三月二十四日

三重県警察関係手数料条例の一部を改正する条例をここに公布します。 **令柜大年十二月二十**日

三重県知事 一 見 勝 之

三重県条例第四十九号

三重県警察関係手数料条例の一部を改正する条例

资

第一条 三重県警察関係手数科条例(平式十二年三重県条例第二十二号)の一部を炊のよ うに致圧する。

次の表の改正前欄に掲げる規定を同表の改正後欄に掲げる規定に傍線で示すように改 正する。

띰 改

(道路交通法関係手数料)

五号。以下この条、別表第七、別表第八及

び別表第九において「法」という。)の規 定に基づき、次の各号に掲げる許可等を受 けようとする者は、それぞれ当該各号に定 める種別の手数料を納めなければならな

|~十円 (器)

十六 法第九十二条第一項 又は第九十五 条の二第十一項の規定による運転免許 証(以下この条及び別表第七において 「免許証」という。)の交付を受けよう

とする者 免許証交付手数料

十九 (器)

十八 法第九十五条の二第三項の規定に よる特定免許情報の記録又は法第九十 五条の三の規定により読み替えて適用 する法第九十二条第二項の規定若しく は法第百六条の四第二項の規定による 免許情報記録の書換えを受けようとす る者 (免許の効力の停止の期間が満了し た場合又は免許の効力の停止が解除さ れた場合に法第九十五条の二第一項の 規定による申請をした者その他の法第 百十二条第一項第四号の二の政令で定 める者を除く。) 特定免許情報記録手 数科

改 (道路交通法関係手数料)

第八条 道路交通法(昭和三十五年法律第百第八条 道路交通法(昭和三十五年法律第百 五号。以下この条、別表第七、別表第八及 び別表第九において「法」という。)の規 定に基づき、炊の各号に掲げる許可等を受 けようとする者は、それぞれ当該各号に定 める種別の手数料を納めなければならな <u>`</u> د

띰

温

→ → 片 (と)

十六 法第九十二条第一項に規定する運 転免許証 (以下この条及び別表第七にお いて「免許証」という。)の交付を受け ようとする者 免許証交付手数料

十九 (器)

- <u>二十四</u> 法第百一条第一項又は<u>第百一条</u> の二第一項の規定による免許証又は免 許情報記録(以下この項及び別表第七に おいて「免許証等」という。)の有効期 間の更新を受けようとする者 角許証 等更新手数科
- 定による免許証等の有効期間の更新を 受けようとする者 経由手数料
- 二十六 法第百五条の二第二項の規定に よる運転経歴証明書の交付を受けよう とする者 運転経歴証明書交付手数料
- よる運転経歴情報の記録を受けようと する者 運転経歴情報記録手数料
- 二十八 道路交通法施行規則(昭和三十五 年総理府令第六十号。別表第七において 「厍作」かいか。) 第三十条の十一年一 頃の規定による運転経歴証明書の再交 付を受けようとする者 運転経歴証明 書再交付手数料

三十二 道路交通法施行令(昭和三十五年 政令第二百七十号。別表第七において 「赵作」かいか。) 第三十七条の大第二 号に規定する講習を受けようとする者 特定任意講習手数科

<u>川十川・川十日</u> (と)

22 (器)

3 技能検定員審査を受けようとする者が3 技能検定員審査を受けようとする者が 別表第八の上欄に掲げる審査細目につい ての審査を免除される者である場合にあ っては、技能検定員審査手数料の額は、別 <u>表第七の二十の項</u>の下欄の規定にかかわ らず、別表第八の中欄に掲げる区分に応じ て、それぞれ<u>別表第七の二十の頃</u>の下欄に 定める額から、別表第八の下欄に定める額 を減じた額とする。

<u>十く</u>~<u>川十川</u> (と)

二十三 法第百一条第一項又は法第百一 条の二第一項に規定する免許証の有効 期間の更新を受けようとする者 免許 証更新手数料

- 定する免許証の有効期間の更新を受け ようとする者 経由手数料
- 二十五 法第百四条の四第六項に規定す る運転経歴証明書の交付を受けようと する者 運転経歴証明書交付手数料
- 二十六 道路交通法施行規則(昭和三十五 年総理府令第六十号。別表第七において 「佐作」かいか。) 第三十条の十三第一 頃に規定する運転経歴証明書の再交付 を受けようとする者 運転経歴証明書 再交付手数料

三十 道路交通法施行令 (昭和三十五年政 今第二百七十号。<u>次号及び</u>別表第七にお こと「政令」 という。) 第二十七条の六 第二号に規定する講習を受けようとす る者 特定任意講習手数科

<u>川十」・川十川</u> (器)

2 (泰)

別表第八の上欄に掲げる審査細目につい ての審査を免除される者である場合にあ っては、技能検定員審査手数料の額は、別 表第七の十九の項の下欄の規定にかかわ らず、別表第八の中欄に掲げる区分に応じ て、それぞれ<u>別表第七の十九の頃</u>の下欄に 定める額から、別表第八の下欄に定める額 を減じた額とする。

- 教習指導員審査を受けようとする者が|4 教習指導員審査を受けようとする者が 別表第九の上欄に掲げる審査細目につい ての審査を免除される者である場合にあ っては、教習指導員審査手数料の額は、別 表第七の二十二の項の下欄の規定にかか わらず、別表第九の中欄に掲げる区分に応 じて、それぞれ<u>的表第七の二十二の頃</u>の下 欄に定める額から、別表第九の下欄に定め る額を減じた額とする。
- ら 法第百八条の四第一項に規定する指定ら が行う法第百八条の二第一項第二号、第十 号又は第十四号に掲げる講習を受けよう とする者は、第一項の規定にかかわらず、 習機関に納めなければならない。

(格)

別表第七 (第八条関係)

#	種 数	別料	0			12	<u> </u>		(F	?				額 数	菜
1	~	+	1 1										(密)
	(盤)												
+	111		剰	\mathbb{K}	型	៕	洪	紙	弋	+	4	₩	+	1<	回
	鬥	免	揾	動	##	鈱	0	1 1	無	1	严	無	王	+	H
	紅	礟	#	計	•	#	1	中	\bowtie	せ	紙	1 1			
	羧	较		型	Щ	動	卓	N	談	汌	_	٢			
				₩	鈱	址	1=	严	0	異	定	0			
				×	せ	舞	興	Щ	1K)	钗	1	N			
				#	型	Щ	禅	ďП							
				動	##	免	洪	無	九	+	7	₩	\pm	九	回
				計	\lesssim	庥	6	1 1	無	1	严	無	开	+	田
				10	私	艦	111	中	\bowtie	ば	無	田			
							卓	N	談	川	ے	٢			
							1=	严	0	辩	定	0			
							興	Щ	₩	区	$\stackrel{\sim}{\sim}$	10			
							滑	ďП							
								赵	华	紙	111	+	7	垣	开
								111	**	6	1<	0	+	田	-
								1 1	無	1<	中	N			

- 別表第九の上欄に掲げる審査細目につい ての審査を免除される者である場合にあ っては、教習指導員審査手数料の額は、別 表第七の二十一の項の下欄の規定にかか わらず、別表第九の中欄に掲げる区分に応 じて、それぞれ<u>別表第七の二十一の頃</u>の下 欄に定める額から、別表第九の下欄に定め る額を減じた額とする。
- 法第百八条の四第一項に規定する指定 講習機関(以下「指定講習機関」という。) 講習機関(以下「指定講習機関」という。) が行う法第百八条の二第一項第二号、第十 号又は第十四号に掲げる講習を受けよう とする者は、第一項の規定にかかわらず、 同頃第三十号の講習手数料を当該指定講 同頃第二十八号の講習手数料を当談指定 講習機関に納めなければならない。

(器)

別表第七 (第八条関係)

11/2 /-/	'	' '	,-,	' ''	1 \		- /					
年 教	茶	6			15	<u><1</u>		(*	?			手数料
種	沼							`	`			の額
_ >	+	11										(盤)
(盤)										
+11		刪	+	型	Ш	洪	無	弋	+	4	₩	中五百
型	免	盂	動	1111	鈱	6	1 1	無	1	严	無	H 十 田
私	畿	#	非	′	#	1	中	\bowtie	せ	紙	1 1	
燅	菜		至	៕	重	中	IJ	談	汌	ے	٢	
			₩	鈱	盂	1=	严	0	異	定	0	
			×	せ	禁	慁	Щ	₩	区	1	10	
			#	型	Ш	滑	ďП					
			動	₩	免	洪	無	九	+	4	巛	千九百
			菲	N	庥	6	1 1	無	1	严	無	E
			N	私;	黔	111	中	×	せ	紙	田	
						中	IJ	談	川	ے	٢	
						10	严	0	辩	定	0	
						喇	Щ	1H	区	1	10	
						滑	ďП					
							赵	<₽	紙	111	+	八百円
							111	*	6	1<	6	
							1 1	無	4<		IJ	

	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
超かるかむ	超かるかむ
	を 使 な 2 期
田のたる配	田のため <u>名</u>
	を受けるこ
ことができ	とができな
ながった神	かった 神に
按第七十七条三十九	汝策九十七条<u></u>回千 百
611年1 頃 6 恒日	
規定の適用を	規定の適用を
受けない場合	受けない場合
送 第 九 十 七 <u>大 千 七</u> 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	
	条件 風楽 匝田
11 中 7 超 万	
() () () () () () () () () ()	る事風につ
☆ (以下 ハ)	縣 冬 公 安 委
の表におこ	一
マ「牧舗器	ずる自動車
	を を を で
い。) を が が が が が が が が が が が が に に に に に に に に に に に に に	
鉄する田劃	
て受ける諸	
普通自法第九十七条千九百	普通自法第九十七条干七百
動車免の二第一項第門	動車免の三第一項第五十円
許に係一号又は第二	許に係一号又は第二
る試験字に該当して	る試験 号に該当して
同項の親定の	同項の規定の
適用 を 受 ける	適用を受ける
	整 包
法第九十七条千九百	汝第九十七条<u></u>年九百
	の二無一項無円
三号又は第五	三号又は第五
字に 該当して	号に該当して

同項の規定の	同項の規定の
適用を受ける	適用を受ける
<u> </u>	野 包
图	
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三	
川熊大中に	一川無大中に
超げるかむ	超がるかむ
を	
田のため倒	田のため倒
計 温 夢 の 更	
	を受けるこ
ことができ	とができな
なかった神	かった 押に
に対する報	対する試験
艦	
	按 箫 九 十 七 朱 <u>二 十 五</u>
の二第一両の百円	の二部一両の百五十
規定の適用を	現 定 の 適 用 を 団
受けない場合	受けない場合
技能試験を三千三	
公安委員会百円	然 第 一 項 第
が提供する	一一中に報び日
自動車を使	る単型につ
用して受け	2ト作心類
る場合	験を公安委
	員会が提供
	する日剰車
	を使用して
	受ける場合
特定第法第九十七条干八百	特定第法第九十七条干七百
一種運の二第一項第 <u>五十円</u>	種 運 の 二 第 一 項 第 五 十 円
転免許二号に該当し	転 免 計 二 号 に 談 当 し
(大型て同項の規定	(大型で同項の規定
特殊自の適用を受け	特殊自の適用を受け
動車免る場合	劃車免 る場句
許、大法第九十七条千九百	許、大法第九十七条千九百
型自動の二第一項第五十円	型自動の二第一項第円
二輪車三号又は第五	二輪車三号又は第五
免許、号に該当して	免許、早に該当して

	细	浬	4111	llm'	闰	2	岀	111	2			#
		11										1
		免				,~°	NT. /	~	, \			1
		はな		1,	_	仁	無	111	+	五里五十		
		免								十田		
	4FI		<u></u>					中		-		A
	2	0	以					s.				,
	1		1=					<u>.</u>				1
	೨	。)	\bowtie					S				2
	12	+	型		丰	냁	排	9	\blacksquare			2
	李	茶	┨		新	₩	区	±	N			1
	動	##	無		IJ	Ŋ	ŽŽ.	r	HU			4
	1 1	種	俄		12	γQ,	7	4	神			1
	計	₩	ے		N	衣	4	N	私			1
	~	せ	槲		籔							^
	<u> </u>	無	1 1	洪	無	弋	+	4	巛	114<		Ē
	種	鈱	址	6	1	無	1	严	6	田田		Ą
	N	庥	10	雉	定	6	蝈	Щ	₩			2
	掹	礟		赵	±.	2	<u></u>	影人	П			1
					汝	笳	私	礟	₩	四十五		
					\langle 4	#	槉		41	十年早		
					ŽŽ.	辑	供	to	N	E		
					Щ	動	₩	461	庚			
					Щ	ے	٢	区	1			
					10	剩	ďП					
	_	1	.111-	.111	ĮπΣ	تے	4	7	₩	千九百		-
	~	型	₩.	浜	ÁΠ	7		,		11 - 11		
										H 十 下 一 人 同		Ī
	殊		動	0	1 1	無	1	严	6			1
	車殊	4111	許動	規の	河	の 新	1 蝈	用項	6			
	又車殊	免自	原許動	受視の	 	る ら の 第	興	6 田 頃	\$ 6			1
	動又車殊	は免自	付原許動	受視の	関け帝二	4 2 0 第	第一第一通 一	二 四 田 風	+	H+E		
	自動又車殊	機は免自	車付原許動	受親の	三叉が高い	条 今 ら ら の 第	の 第 帰 一	二 四 田 風	9 十 8 9	田十田田十田田十田田十田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田		
	兔自動又車殊	転機は免自	に車付原許動	受視の	二三叉了帝二	第条令るの無	六の第一場 適一	7 回 四 田 国	にの 4 を 8	田十田田十田田十田田十田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田		
	兔自動又車殊	許転機は免自	に車付原許動	受規の	揭 二 三 政 了 定 二	げ第条合気の第	る六の第一物画一	号六三 中国	む 1 0 2 4 0 2 4 0 4 0 4 0 1	田中田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田		
	係免自動又車殊	許転機は免自	に車付原許動	受規の	を 揭 二 三 政 D	得げ第条令 2の第	なる六の第一物画一	や 吊 六 三 一 の 用 頃	理むにの十 をの	田中田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田		

丰	浬	Щ	匣	項の規定の
重	1	靐	興	用を受ける
₩	鈱	丰	滑	√ □
×	ば	槲		政令第三十八百円
<u> </u>	免	址		三条の六の
B		5		二第六号に
ĸΩ	0	$\vec{\sim}$		掲げるやむ
 		<u>1</u> =		を得ない理
٤	。)	\bowtie		由のため角
ば	\mathbb{K}	型		許証の更新
李	茶	Щ		を受けるこ
重	₩	無		とができな
1	重	免		かった者に
盐	扯	_		対する試験
~	せ	槲		
Ę	無	1 1	沃	第九十七条二千六
軍	鈱	111111	0	二第一項の百円
N	庥	K	羪	定の適用を
紅	畿		区	けない場合
				法第九十七四千五
				条第一項第十円
				ニ号に掲げ
				る事項につ
				いて行う試
				験を公安委
				員会が提供
				する自動車
				を使用して
				受ける場合
〈	型	华	洪	第九十七条干九百
茶	Щ	重	0	二第一項の団
₩	免	址	羪	定の適用を
×	せ	厨	区	ける場合
重	襚	ţ		政令第三十八百円
Ш	牌	##		三条の大の
俄	丰	IJ		二第六号に
庥	10	掹		掲げるやむ
礟				を得ない理
				由のため角

新 を 受 け る	を受けるこ
11 2 2 N 12 N 12 N 12 N 12 N 12 N 12 N	とができな
なかった神	かった布に
に対する報	
<u></u>	
拉 第 九 十 九 条 广 大 百	
規定の適用を	
受けない場合	敗さない惑句
大型自法第九十七条干八百	大型自法第九十七条十十百
動車第の二第一項第円	動車第の二第一項第四
二種免二号に該当し	二種免二字に該当し
許、中て同項の規定	許、中て同項の規定
型自動の適用を受け	型自動の適用を受け
車第二を場合	単 無 11 2 季 4
種免許法第九十七条干九百	種免許法第九十七条干九百
又は普の二第一項第五十円	又は普の二第一項第四
通自動三号又は第五	通自動三号又は第五
車第二号に該当して	車第二号に該当して
種免許同項の規定の	種免許同項の規定の
に係る適用を受ける	に係る適用を受ける
辉聚 ჰ仓	紫 鑿 雪 4
赵令第三十<u>九</u>田 用	
三条の六の十円	
二第六中に	二部六中に
掲げるやむ	超げるやむ
を得ない理	を得ない理
用のため倒	用のため倒
許証等の更	
新 を 受 け る	を受けるこ
ことができ	とができな
なかった者	なった布に
に対する揺	対する試験
盛	
法第九十七条四千五	按第七十七条回午 人
611年1年6日日	611年1
規定の適用を	規定の適用を
受けない場合	受けない場合

### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	15/ 11/ 42 dr/ 1, 13 d F3	116 180 7 1 17 17 17 17
本文学 本文	技能試験を七千四	送 第 九 十 七 十 七 十 大
本		
本文学 本文		
本		
本		
本文学 本文 本文	₩ 40 元	
本文学 中 中 中 中 中 中 中 中 中		
本		
本 本 本 本 本 本 本 本 本 本		
十回	1 V 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
+ 四 検 大型 目 画 画 極 受 画 画 画 を 受 画 画 画 画 を 受 画 画 画 を の 画 の の の の の の の の の の の の の の		
+ 四 様 大型 自 簡 車 夜 運 極 気 1 十 四 様 大型 自 簡 車 夜 運 極 気 1 十 元		
+ 四 様 大型 自 動車 夜 運 極 校 型 自 動車 夜 運 極 女型 自 動車 夜 運 極 校 型 自 動車 夜 運 極 な 理 母 母 母 母 母 母 母 母 母 母 子 母 母 母 子 母 母 子 母 母 母 子 母 母 母 子 母 母 母 子 母 母 母 女 な な 母 母 母 母 女 な な 母 母 母 母 女 な な 母 母 母 母		
十回 様 大型 一		
十回 様 大型 画画		
+ 四 検 大型 自動車 仮 運 縦 央 三十 元 を 大型 自動車 反 運 縦 安 三十 元 を 5 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
+回 検大型自動車 仮運転 会 11 十八 1		
+四 検大型自動車仮運転名 III 十四 検大型自動車の運転名 III 十元 を 大型自動車を 優ける場合 国会 で 登ける場合 国事項 2 フン 受け 2 数を 4 数を 4 を 4 を 5 を 6 を 6 を 7 と 5 が 8 を 6 を 7 と 7 が 8 を 7 と 7 と 7 が 8 を 7 と 9 で 7 を 8 を 7 と 9 で 7 を 8 を 7 と 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9 で 9		
+四 検大型自動車 仮運転名 III 十元 を大型自動車 仮運転名 III 十元 を場合 P を場合 B 中心 を場合 B 中心 を B 中心 を B 中心 を B 中心 を B 中心 な な 表 は B 中心 な な 表 は B 中心 な な 表 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま		
+四 検大型自動車 仮運転 名 三十九 で		
+四 検大型自動車仮運転免 III 十四 検大型自動車仮運転免 III 十四 検大型自動車を運転の III 十八 多場合 P を B を A 公 女 参 自 会 が 提供 する自動車 を B を A 公 女 参 自 会 A 会 な 会 自 会 A 会 な な な 自 も A を B を B を B を B を B を B を B を B を B を		
+四 検大型自動車仮運転免 III十九 十四 検大型自動車位運転免 III十九 11 11 11 11 11 11 11		
+四 検大型自動車仮運転免 III 十九 を大型自動車の運転免 III 十九 受ける場合 る場合 同島 古と る場合 自動車を使用して は提供する自動車を使		
+四 検大型自動車仮運転免 <u>三千九</u> 11 2 2 2 2 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4		
十四 検大型自動車仮運転免三十九 十四 検大型自動車仮運転免 三十九 受ける場合 を使用して を使用して を合自動車を使 日 日 日 日 日 日 日 日 日		
+四 検大型自動車仮運転免 III十九 十四 検大型自動車の運転名 III十九 受ける場合 を使用してる場合 月して受ける場合 国会が提供する自動車を使 11号に掲げ E 11号に掲げ E 11号に掲げ E		
十四 検大型自動車仮運転名三十九 十四 検大型自動車位運転名三十九 受ける場合 を開してる場合 同会が提供する自動車を使用して受ける試験を公安を自身を使用して受ける事項について行う試験性する 11号に掲げ口		
十四 検大型自動車仮運転免 三十九 を大型自動車伝運転免 三十九 受ける場合 を使用して る場合 高会が提供 再して受け は な な 女 女 真会が 提供 自動車を使 自動車を使 る事項につ		
+四 検大型自動車仮運転免 <u>三千九</u> サ四 検大型自動車仮運転免 <u>三千九</u> 受ける場合 を使用して する自動車 する自動車 高会公安委 関を公安委	自動車を使	
十四 検大型自動車仮運転免 三十九 十四 検大型自動車仮運転免 三十九 受ける場合 を使用してする自動車 する自動車 員会が提供		いたたっぱ
十四 検大型自動車仮運転名 □ 下九 サ四 検大型自動車 受ける場合 受ける場合 を使用して する自動車	る場合	職 名 公 安 卷
十四 検大型自動車仮運転免 11千九 受ける場合 を使用して		員会が提供
十四 検大型自動車仮運転名 11千九 中四 検大型自動車 受ける場合		する白剰車
十四 檢大型自動車仮運転免三千九 十四 檢大型自動車仮運転免三千九		を使用して
		受ける場合
在手数許、中型自動車仮運転 在五十 在手数許、中型自動車低運転 和同日	十四 檢大型自動車仮運転免三千九	十四 檢大型自動車仮運転免三千九
	查手数許、中型自動車仮運転 百五十	查手数 許、中型自動車仮運転 <u>百円</u>
	料 免許又は準中型自動円	料 免許又は準中型自動

車仮運転免許を受け	車仮運転免許を受け
ている者に対する法	ている者に対する法
第八十九条第三項の	第八十九条第三項の
規定による検査(以下	規定による検査(以下
「	「
公安委員会六千九	公安委員会六十四
が提供する百五十	が提供する同円
自動車を使団	自動車を使
用して受け	用して受け
る場合	る場合
普通自動車仮運転免三千八	普通自動車仮運転免三千七
許を受けている者に百五十	許を受けている者に百五十
対する検査 同	対する検査
公安委員会四千六	公安委員会四十五
が提供する百五十	が提供する百五十
自動車を使門	自 動車 を 使 同
用して受け	用して受け
る談合	る場合
十月 梅	十
	世 神 一 - -
 	
が提供する円	が提供する百五十
自動車を使	自動車を使用
用して受け	用して受け
№ 型 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	る影響を
十六 免第一法 第政令第三十二千三	十六 免第一種運転免許又は二十五
許証交種運九十三条の六の百五十	許証交第二種運転免許に係十円
付手数据免二条二第六号に円	付手数る免許証(政令第三十
対 許又第一掲げるやむ	対 三条の六の二第六号
は第項のを得ない理	に掲げるやむを得な
二種規 定由のため免	い理由のため免許証
運転によ評証等の更	の更新を受けること
免許る交新を受ける	ができなかった者で
に係付をことができ	あって、法第九十七条
る免受けなかった者	の二第一項第三号に
群間 の 動 で も っ ト 、	談当して同項の規定
<u> </u>	の適用を受けたもの
	に対する交付の場合
	∽ 条 ✓ 。)

	談当して同	
	項の適用を	
	受けたもの	
	(以下この	
	表において	
	「特定試験	
	免除者」と	
	こ心。) 77 丝	
	する交付以	
	女 の 繋 位	
	日を同じ二十百	法第九十二条二千五
	くして第五十日	第一項後段の十四
	一種運転に、中	規定により、一に、当
	第二種運許一種免許又はえる免	に係る免許証種類のの種類の免許該他の
	転免許の類ごと	に他の種類の免許には多ろの言語を業の
	うちニ以に二百	免許に係る事係る事
	上の種類円を加	頃を記載して頃を記する。
	の免許をえた額	その種類の免載する
	受ける者	許に係る免許ごとに
	(以下 N)	証の交付に代二百円
	の表にお	える場合 を加算
	いて「葱	した酸
	数免許取	
	停を一と	
	こん。) 万	
	対する交	
	<u>t</u>	
	特定試験免二千百	谭運転免許又は千七百
	除者に対す日	遭 単 単 年 の 許 に 体 日
	る交付の場	温(政令第三十
	⟨□	いるやむを得ない大の二第六号
		Hのため免許証いるやむを得
		を受けることはなる。
		らなかった者で
		<u>、 </u>
		アー 項 第 三 号 に
		ンて同項の規定
1 1 1	1 1	

	に限る。)に対する交付の場合の適用を受けたもの
取得者に円に、 複数免許子九百	第一項後段の円に、法第九十二条子七百
対する交手える	規定により、一当該他
	の種類の免許の種類
	に係る免許証の免許
মথা	に他の種類のに係る
	免許に係る事事項を
<u> </u>	項を記載して記載す
整	その種類の免るごと
	特に係る免許に11万
	証の交付に代円を加
	<u> </u>
	五
送 第 九 十 五 条 の 二 十 五	
二第十一風の戡百五十	
定による交付を円	
受ける場合	
仮運転免許に係る免デ百円	仮運転免許に係る免デ百五
	結構 → □
十七 免第一種運転免許又は 二千六	十七 免第一種運転免許又は 二十二
交付手る免許証	交付手る免許証
数料 仮運転免許に係る免 <u>干五十</u>	数料 仮運転免許に係る免 <u>干百五</u>
装温	
十八 特法第法第特定試験免于五百	
定免許九十九十除者に係る五十円	
情報記五条五条記録以外の	
#	
項の項の 取得者に五十円料 第三第六 複数免許子三百	
規定規定 係る記録に、与項の項の 取得者に五十円	
<u> </u>	
心 年 心 垂 2 ・	
<u> </u>	
報の場合 田を加	
	1 1 1 1

記錄		
	特定試驗免干三百	
	除者に係る五十円	
	記録の事句	
	える発	
	<u> </u>	
	要 シン	
	211 回	
	日 物 村	
	法第百一条の四八百円	
	<u> </u>	
	下 こ の 表 に お い 定 に よ る 申 出 (以	
	<u> </u>	
	■ 丑] か う 心。)	
	<u> </u>	
	法第九十五条の干五百	
	二第六項の規定円	
	による申出及び	
	更新時不交付申	
	田のいずれをも	
	なこ惑句	
	浓 第 九 十 二 条 百 日	
	一个	
	第 百 一 条 の 回 一 項 若 し く は	
	<u> </u>	
	辉煌(仮運転免)	
	群 に 係 る も の	
	必張へ。) の 校	
	付又は法第九	
	十	
	の 親 定 に よ る	

	保 帯 に 係 る も
	<u> </u>
	
	九十二第四項に規定五十日
	五条でる免許情報記
	6 三線 個人 番号 カー
	<u>の </u>
	<u> </u>
	より記録個人番号力
	据々一に」 ひこん。)
	替えのみを有する者
	て適に係る書換え
	用
	る法 者に係る書換五十円
	<u>継七</u> ペ に、中
	十 1 水 2 成
	<u> </u>
	一
	<u> </u>
	<u> 田 </u>
	は 我
	<u> </u>
	大条指に係るものを
	<u>の日深へ。) 及び免罪</u>
	第二情報記錄個人審
	頃の号カードを有す
	規定る者に係る書換
	10 m
	注 如
	<u> </u>
	<u> </u>
+ 7	(盤) 十 (2 (2)
I +	(裏) (裏)

(盤)		
<u>三十</u>	大型自動車免許、中型	11 K II
能検定	自動車免許又は準中	H + 1 H
貝審查	型自動車免許に係る	H十田
半 数	法第九十九条の二第	
	四項第一号イの規定	
	による審査(以下「技	
	能検定員審査」とい	
	vひ。)	
	普通自動車免許に係	1 12 =
	る技能検定員審査	$+ \leq \mu$
		E
	特定第一種運転免許	1万四
	に係る技能検定員審	十 四 石
	桕	用十田
	大型自動車第二種免	11K1
	許、中型自動車第二種	H 1 H
	免許又は普通自動車	E
	第二種免許に係る技	
	能検定員審査で、これ	
	らの免許に対応する	
	第一種運転免許に係	
	る技能検定員資格者	
	証の交付を受けてい	
	る者に対するもの(以	
	下「大型自動車第二種	
	免許等に係る技能検	
	定員審査」という。)	
11+1		(盤)
(盤)		
11+11	大型自動車免許、中型	1 万 1
教習指	自動車免許又は準中	十 戸 田
灣 具 海	型自動車免許に係る	
查手数	法第九十九条の三第	
菜	四項第一号イの規定	
	による審査(以下「教	
	習指導員審査」とい	
	vひ。)	
	普通自動車免許に係	1 12 1

(盤)	
<u> </u>	大型自動車免許、中型二万三
能検定	自動車免許又は準中〒四百
貝審查	型自動車免許に係る円
手数科	法第九十九条の二第
	四項第一号イの規定
	による審査(以下「技
	能検定員審査」とい
	iひ。)
	普通自動車免許に係「万九
	る技能検定員審査 <u>干五百</u>
	特定第一種運転免許一万四
	に係る技能検定員審干七百
	<u>田</u>
	大型自動車第二種免 <mark>二万千</mark>
	許、中型自動車第二種五百円
	免許又は普通自動車
	第二種免許に係る技
	能検定員審査で、これ
	らの免罪に対応する
	第一種運転免許に係
	る技能検定員資格者
	証の交付を受けてい
	る者に対するもの(以
	下「大型自動車第二種
	免許等に係る技能検
	定員審査」という。)
11 +	(
(盤)	
+	大型自動車免許、中型一万四
	自動車免許又は準中千五百
	型自動車免許に係る五十円
	法第九十九条の三第
菜	四項第一号イの規定
	による審査(以下「教
	習指導員審査」とい
	普通自動車免許に係一万千

る教習指導員審査 干円	る教習指導員審査 <u> </u>
	十日
特定第一種運転免許九千九	特定第一種運転免許九千六
に係る教習指導員審百五十	に係る教習指導員審百五十
H E	H E
大型自動車第二種免 <mark>一万二</mark>	大型自動車第二種免 <mark>一万二</mark>
許、中型自動車第二種干八百	許、中型自動車第二種十四百
免許又は普通自動車 <u>五十円</u>	免許又は普通自動車五十円
第二種免許に係る教	第二種免許に係る教
習指導員審査で、これ	習指導員審査で、これ
らの免許に対応する	らの免許に対応する
第一種運転免許に係	第一種運転免許に係
る数習指導員資格者	る教習指導員資格者
証の交付を受けてい	証の交付を受けてい
る者に対するもの(以	る者に対するもの(以
下「大型自動車第二種	下「大型自動車第二種
免許等に係る教習指	免許等に係る教習指
二十三 準中型自動車免許に 二千五	三十二 準中型自動車免許に下九百
再試験係る再試験 十円	
手数料 法第百条の二五十五	手教科 従第 旧条の二回十回
第二項に規定十円	第二項に規定百円
ずる準中型自	する維中型自
動車の運転に	動車の運転に
つい と 必 圏 な	つい と 必 敏 な
技能について	技能について
行う試験を公	行う試験を公
安委員会が提	安委員会が提
供する自動車	供する自動車
を使用して受	を使用して受
ける弱句	たる惑句
普通自動車免許に係 <mark>干九百</mark>	普通自動車免許に係干七百
る再業器 田十日	る再試験 田十田
法策百条の二二十七	法策百条の二二十五
第二項に規定百五十	第二項に規定百五十
する普通自動門	する普通自動団
車の運転につ	車の運転につ
いて必要な技	いて必要な技
## ひ ひ こ ト 作	細いしてん

う試験を公安	う試験を公安
委員会が提供	委員会が提供
する自動車を	する自動車を
使用して受け	使用して受け
る場合	る場合
大型自動二輪車免許下八百	大型自動二輪車免許下六百
又は普通自動二輪車円	又は普通自動二輪車五十円
免許に係る再試験	免許に係る再試験
	
送 第 百 条 6 二 三 千 五	
第 二 項 に 親 左 百 五 十	第二項に規定国
ずる大型自動円	ずる大型自動
の	ら 遍 積 に ひ こ
て必要な技能	て必要な技能
に ひ こ ト 作 心	にしてただい
試驗を公安委	試驗を公安委
員会が提供す	員会が提供す
る自動車を使	る自動車を使
用して受ける	用して受ける
字句	1
原數機付自転車免許千百円	原動機付自転車免許干円
に係る再試験側を背に、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では	に係る再試験原重を作品専具を言って
二十四 免許証法第百一条の二十七	
免許証の有効二の二第一項百五十	免許証条の二の二第一項の百円
等更新期間のの規定による円	更新手規定により免許証の
手数料 更 新経由地公安委	数料 更新の申請をする場
(同時 員会を経由し	勿%深へ。)
に免許て行う更新申	
情報記請書の提出(以	
録の有下この表にお	
効期間いて「経由申	
の更新譜」という。)	
を受けをする場合	
る場合更新時不交付子三百	免許の更新(法第百一二十五
を除用出をする場所	条の二の二第一項の百五十
√。) ⟨□ (滋田申贈 ⟨□ □ □ □ □ □ □ □ □ □	規定により免許証の円
する場合を除	更新の申請をする場
\(\lambda\)\(\rangle\)\(\lambda\)\(\lambda\)\(\lambda\)\(\lambda\)\(\lambda\)\(\lambda\)	<u>合に限る。)</u> mv ※ 0 m ※ vo b、vo w

	経由申請及びニチ八		
	更新時不交付百五十		
	田子子との日田		
	をもしない場		
	√ □		
	経由申請をす下日		
	る場合であっ		
	<u>て、、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、</u>		
	項の規定によの二の二第三		
	る申出(以下こすの 想定によ		
	の表においてる時は(以下)		
	「経田地書換」の表いおりで		
	<u>申出」という。)</u> - 後 日 五 言 要		
	をするとき		
<u> </u>	経由申請をすて九百		
	る場合であっ五十円		
を修	て、経由地書換		
√°)	申出をしない		
	-U HU		
	経由申請をし二千百		
	<u>ない場合</u> E		
安	経由申請をす二十五		
の有效	る場合であっ百円		
期間の	て、経由地書換		
更新及	甲出をすると		
び免許			
	経由申請をすニチハ		
	る場合であっ百五十		
	て、経由地書換円		
	申出をしない		
	A #0		
	経由申請をし二千九		
	円 ない場合 百五十		
	書換申出をすて七百	<u> </u>	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
海田手 <u>心</u> 縁句 二十五 海田村			
	書換申出をして百五		
ない場 へ 数米 落日 五			
	- -		1

A		手 歴 運 十 数 交 証 転 五 料 付 明 経		十一旦日
■ 単 数	<u>十日</u> 十日用	三十六		十百日
		屋 調		
書再交		書再交		
世 数		付手数		
<u>*</u>		菜		
11+2	1111	11++1		1 1 1 1
国 太 運	田用十	国外運		百五十
唐 名	E	東 名		E
iii 交付		証交付		
 		手数学		
三十 講法第百八条の二第一			法第百八条の二第一	
習手数項第一号に掲げる誰			項第一号に掲げる講	
	C 40	教学	₩	C to
	<u> </u>			田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
114 tap 1 2 2 1 tap 1	+ E		114 July 1 2	+ = 1
預答こきと掲げる難法第百八条の二第一			頃筒に引と掲げる舞法第百八条の二第一	
習	(w m に m に m に m に m に m に m に m に m に m		習頭第二号に掲げる講	つき問じ
	11 14 2		<u> </u>	11 11
				田田十
I I I				

				. /─	`				(. /⊢	`
			·	密						盤	_
洴	無	Ш	\mathbb{X}	型	៕	重	#	免	轞		
\prec	₩	0	菲	´ [上星	H 4III	重	#	垂	噩	,
1	無	1	免	盂	\bowtie	#	舞	#	5	₩	
严	無	E	至	Ш	重	₩	免	指	回	+	-
中	\approx	超	<u>に</u>	庥	10	糖月	河(票	回	Ŧ	-
か	K	艦	+	型	∕Ⅲ	重	₩	免	E	_	
			丰	N	庥	10	艦	照			
			ご	₩	Ç	Y :	Ħ ′	丰			
						冊					
			1KI	钗	7	7	2	N			
			≁	N	茶	to	10	₩			
			0	۲Į	图	る。)				
			票	#	型	Ш	動	#	轞		
			免	押	\lesssim	庥	10	灩	盐	噩	1
			四	(岩	□淖	1	画	₩	ς	₩	
			免	計	46	区	7	7	111	#	=
			2	10	种	\approx	茶	fo	Ш	田	-
			N	nú) (5	461	丛			
			~	0)						
			丰	浬	Ш	靊	#	免	轞		
			丰	N	庥	₩ #	Ħ R	Ш	盐	噩	1
									ς	₩	
									111	#	}
									+	田	_
洴	無	Ш	\mathbb{K}	型	Ш	劐	1 1	響	轞		
\prec	₩	0	₩	免	扯	\approx	庥	N	垂	噩	1
1 1	無	1	離						ς	₩	
严	無	田							凹	\mathbb{H}	1
中	N	超							旦	田	
Ħ	N	艦	丰	浬	∕Ш	重	1 1	靐	轞		
			₩	鈱	址	N	庥	K	垂	噩	1
			轞	ŖΠ					ς	HU	
									凹	#	1
				_	_				田	田	-
_	1-0	1m	\prec	₩	6	11	無	1	離	F/II	
浜	無	Ιππ	`								
						Ħ	N	艦	垂	噩	

									E		
			(盤)				(盤)
洪	無	Ш	\times	型	Ш	重	##	免	魋	ŖΠ	1
\prec	₩	0	丰	′ [F 型	4 411	画	₩	垂	噩	N
1 1	無	1	免	盐	\bowtie	#	禁	#	5	HU	
严	紙		厗	Щ	重	##	免	羋	回	+	田
中	\lesssim	超	N	庥	10	糖	₩ (票	Ш	H	+
Ħ	N	灩	₽	型	Ш	重	##	免	E	-	
ŖΠ			辈	\sim	庥	N	灩	ĘΠ			
			N	Ð	5	Y :	Ħ ′	丰			
			浬	Щ	重	##	免	指			
			Ð	区	1	٢	2	N			
			≁	₩ N	茶	40	N	₽Đ			
			0	긷	图	ю°)				
			標	#	型	៕	動	₩	轞		1
			免	盐	\approx	庥	N	艦	垂	噩	N
			照	(料	□ 炠	<u> </u>	種	₩	ς	HU	
			免	盐	46	尽	t	٢	111	#	H
			2	10	种	\sim	茶	4	回	田	
			N	nú) (5	15H	继			
			~	0)						
			丰	浬	Ш	靊	##	免	丰	RII.	1
			菲	۲Į	庥	M #	推 R	Ⅲ	垂	噩	IJ
									5	HU	
									1	+	\leq
									回	田	
洪	無	回	\mathbb{X}	型	Ш	動	1	響	艦		1
\prec	₩	0	#	鈱	丰	N	庥	10	盐	噩	긷
1 1	無	1	艦	ŖII					7	HU	
严	紙	Ħ							凹	+	回
中	\approx	超							Ħ	+	E
Ħ	10	灩	丰	浬	Ш	動	1	響	丰		1
			₩	免	丰	N	庥	N	金	噩	긷
			艦	ŖII					5	HU	
									回	+	$\overline{\mathbb{H}}$
#1	無	Ш	\prec	₩	6	1	紙	1	艦	E-	1
*								w1_1	111	_	
	無	1<	中	\lesssim	蓝	7	16	灩	业"	<u>==</u>	\lesssim

げゅ頃 二 人 洗習 頃 洗習 頃 洗踏 編 本 十 一 の 古九 古人 古人 古面部 のあ のあ の面不 し つ 時 講 十 し つ 時 講 日 一 つ 時 講 日 一 つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 講 日 こ つ 時 課 日 こ つ 時 課 日 こ つ 時 課 日 こ つ 時 課 日 こ つ 時 課 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 こ つ 日 日 日 日 日 日 日 日	ĺ									十 十 十 十 十 十
関係										
関づき頃 () () () () () () () () () () () () ()	华	神	lm		NK.	<u></u>	1 1	萍	1	
関係 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)										
調車車 おより (本) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2		4 μπ/	1	<u>-</u>	~>	-14-	~>	, (*	111111111111111111111111111111111111111	
関連 計画	IXIII									, i
関本語関本語関本語おおお () () () () () () () () () () () () ()										
講 車 計 講 車 計 調 車 計 書 本	H4	無	lm		×¥	<u>۾</u>	1 1	年	1	
離車番講本十一の百第第第第第習免通評申第2第2習免通第2第2第3空動第2系由第4公動※不上不上大口工口日本日本日本型工口日本日本型工口日本日本型工口日本日本型工口日本日本型工口日本日本日本型工口日本日本型工口日本日本日本工口日本<										
		4111/		- -	~>	++-	~>	/ \	111111111111111111111111111111111111111	
調車車調車車第第習免通計車部の習免通所面第1公職配の動所面の額の動日の古第1第2第2の動日の中離日の中離上の中離日の中離日の中離日の中離はのより11はのより11はのより11はのより111はのより111はのより1111はのより1111はのより1111111はのより11111111111111111111111111111111 </td <td>IXIII</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>	IXIII									
										11 \
調車車講事本講事十一の口計算習知通計算新期習知通計算新期習知第二新期公劃公司公司十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	ᄯ	畑	lm	ノ	NY.	<u></u>	1 1	紅	1	
開車										
調車車 調車車 習免画 群車 計車 財金 計車 財金 京働 公面 公事 公事 一つ時 田田 十字 田田 1 つ 時 田田 2 中 田田 1 つ 時 田田 2 中 日田 1 つ 時 田田 2 中 日田 2 中 日田 3 日 日田 4 と 日田 4 と 日田 5 日 日田 6 と 日田 7 日 日田 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日		ÆIΠ/			~	4	<i>خ</i> >	,,,	ilii	
講事事講事事講事計算習知画第二新期公事公事公事大 中間 四 1 つ 中 講 日 1 つ 中 講 日 1 つ 中 講 日 1 つ 中 講 日 1 つ 中 課 日 1 つ 中 課 日 1 つ 中 課 日 1 つ 中 課 日 1 つ 中 課 日 1 つ 中 課 日 1 つ 中 課 日 1 つ 中 課 日 1 つ 中 課 日 1 つ 1 日 日 1 こ 1 日 日 1 こ 1 日 日 1 こ 1 日 日 1 こ 1 日 1 日	Νш									, i
開車										
開車	洪	無	垣	無	+	型	Ш	動	₩	野
大田田田 日田田 日田 日日 日 日日 日 日日 日日 日日 日日 日日 日日 日日 日	\prec	₩	6	免	丰	N	庥	N	艦	時間に
開車	1	無	1							7 tu
講画	頂	無	+							1 11
1	中	IJ	超							田田
 	Ţ	N	艦	半	浬	Щ	動	 	纸	異
 	ŖΠ			非	긵	後:	M #	推 F		時間に
# 国 母 会 本 と で る 中 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国										C #U
# 国 母 記 を 古 会 古 と で る 古 自 動 目 動 画 自 動 目 書 書 習 目 書 書 習 記 出 知 田 田 田 田 田 田 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日										11十年
# 別 を は で な で で き で で を は 記 を は 間 と 報 に 記 を 間 記 報 語 図 ま 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日										五十日
講習 の話になる はまれる 自動 単独 はいる はままい を はままい 一田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田				\mathbb{K}	型	Ш	重	1 1	響	吳輔
講習のきてなる時間に普通自動ご輪講習一門				₩	免	盐	IJ	庥	N	時間に
講習のきてなる時間に普通自動ご輪講習一門				艦						C #U
講習のきてまる時間に普通自動二輪講習一										114 <
講習っきてまる時間に事通自動二輪講習一										
講習ったきまままままままままままままままままままままままままままままままままままま										田
# P				丰	浬	411	重	1	響	曹四一
114-4				₩	鈱	盐	N	庥	N	時間に
				艦	P.I.					n 40
田田										1144
										百円

									田	H -	旧
洪	紙	Ш	\prec	₩	6	11	紙	1	離	E.II	1
严	無	4	中	IJ	超	5	10	艦	盐		N
ŖΠ									7	HU	
									111	+	Ш
									E	-	
洪	無	回	\leq	₩	0	1 1	無	1	講	KII.	1
严	紙	\leq	中	IJ	超	Ħ	K	艦	盐	噩	IJ
E E									5	HU	
									+	田	Ш
									E	-	
浜	無	回	\prec	₩	0	11	紙	1	丰		1
声	無	九	中	N	超	Ħ	N	灩	垂	噩	N
ŖΠ									5	HU	
									ħ	Ш	H
									+	田	
洪	無	Ш	無	#	型	Щ	重	₩	艦	ŖШ	1
\leq	₩	0	免	址	\approx	庥	N	灩	盐	噩	N
1 1	無	1							5	HU	
严	無	+							1 1	+	Ш
中	\approx	超							Ħ	+	E
T	N	離	丰	浬	4	重	##	免	艦	ŖШ	1
ŖΠ			丰	N	溪	M #	Ħ R	Ш	盐	噩	N
									5	HU	
									1	+	H
									+	H	
			K	型	៕	重	1 1	響	艦	RII.	1
			#	鈱	盂	۲Į	庥	10	盐	噩	だ に
			艦						ς	HU	
										+	ħ
									田	田	
			非	浬	៕	重	1 1	響	離	R _{II}	1
			#	免	丰	N	庥	N	盐	噩	N
			離	E.II					ς	HU	
									1 1	+	坩
											1 . 1
										H	

				<u></u>
			原動機付自転	
単	時間 2		車免許に係る	時間に
無性 段四	∩ tu		離 图	S HU
	1144			11十日
				百五十
	E			E
法第百法第九十五条	相但田	法第百	法第九十二条	田田田田
人 条 の の 六 第 一 項 の		火 条 の	の三第一項の	-
二第一表の備考一の		11 無 1	表の備考一の	-
項第十口に規定する		頃第十	27に規定する	
一号に優良運転者に		一号に	優良運転者に	
掲げる対する講習		掲げる	対する講習	
羅留 公安委員会		無险		
の使用に除				
力。 又トハ				
の表				
ト 匠 つ。) か				
離習を受け				
る者の使用				
に 後 の 縄 ナ				
計算機とを				
超 気 通 信 回 温 気 神 作 可				
以 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型				
使用する方文書を得る方				
従				
の嵌んなこ				
ト [4 ツ l				
<u> </u>				
<u> </u>				
			法第九十二条	
			の二第一項の	
			表の備考一の	
			3に規定する	1 1 1

1 3v tml 114 4- 11	1 3v tml 117 3- 11
1 袋 測 掻 布 2	一袋運転者に
	対する講習
インシインニ百円	
按 第 九 十 五 条 干 回 百	送 第 九 十 二 条 干 三 百
表の舗を一の	表の舗を一の
こに規定する	4 に 規 定 す る
遺 区 運 転 を 等	選 区 運 騒 を 等
のうむ株活	四葉の一切など
難 下 該 当 卷 (国	国家公安委八百日
家公安委員会	
規則で定める	定める数令
条の七無二両	6 7 無 11 暦
の基準と該当	の基準に該
しないをかい	当しない者
う。以下この表	<u> </u>
になって同	
い。)をなるも	
のこれを心に	
<u>Şu</u>	
法第九十五条八百円	
6 代第 1 函 6	
表の舗を一の	
こに規定する	
型 区 測 版 来 等	
あるものに対対し、	
 	
インシインコ百円	
	114 Jap 1m 114 Jap 17 1 1 4W 17 1 17
法第百法第七十一条 六千六	大
二第一規定する普通八条のの五第三項に百円	二第一規定する普通円人条のの五第三項に百五十
項第十自動車対応免	項第十自動車対応免
二号に許(以下この表) 万 第 1 第 1 第 1 第 1 第 1 第 1 3 6 6 6 7 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	二号に許(以下この表) 11号に計画するは多
掲 げる において 「 普通	掲げるにおいて「普通」 「まっぱ」(ションの表

			無图	
## 段四	許」という。) 自動車対応免		和古 茂山	許」という。) 自動車対応免
	を受けている。			を受けている
	者(法第九十七)を写いている			者(法策九十七)
	第 三 第 一 項			条の二第一項
	第三号イ及び			第三号イ及び
	とびとと言うたくに掲げる者			とばらきましている者
	はないは、まり回答には、強びに法策百			1 2 2 5 2 5 2 5 2 5 2 5 2 5 2 5 2 5 2 5
	一条の四第三			
	頃の規定の適			項の規定の適
	月を受ける者			用を受ける者
	を除く。) C 対			を除く。) C 対
	する講習			する講習
	普通自動車対二千九			普通自動車対 二十九
	に免許を受け百五十			応免許を受け百円
	ている者(従熊田			ているを(従)
	九十七条6二			#P 1 mm #pp 11
	第一屆第三号			第一 項 第 三 中
	イ若しくはい			て若しくはへ
	は掲げる者又			は に 親 げる 者 又
	は法第百一条			は 送 第 百 一 条
	の四第三項の			の 四 第 三 面 の
	現 定 の 適 用 を			規定の適用を
	受ける者に限			受ける者に限
	る。) 又は第一			る。) 又は第一
	種運転免許若			種運転免許若
	しくは第二種			しくは第二種
	国転免許であ			運転免許であ
	ロオで記げる			って普通自動
	H 対 伝 免 許 以			A
	¥64664			本のもののな
	を受けている			を受けている
	者に対する講			者に対する講
116 150 1			116 100 1	
				八条の二第一一万二
	○ 条 第 十 三 項 第 十 九 百			三号に掲げる千五百
	中の表第二円		離 四	
	- 号に掲げる講			当該講習が府九千五
	で習力法に係る			令第三十八条

	凾	£	Ю	₽)	6	r	#8	No	郵	
		<u></u>	-	√ □		*	-	-		
	.,	•		`		無	111	+	\prec	九千三
										百五十
					中					E
					<u>`</u>					
					七					
				, ,	6			`		
				ĮП						
	洪	無	垣	\leq	₩	6	1 1	紙	1	照 計
	祖	無	+	囙	中	IJ	超	1		時間に
	丰	EM.								7 th
										11114
										百田
	洪	無	旧	\prec	₩	6	1 1	無	1	無 四 1
	型	紙	+	田	中	N	超	Ħ	10	時間に
	離									C HU
										11十1
										田
	洪	無	百	\prec	₩	6	11	紙	1	原輔
	恒	無	+	1<	中	Ñ	超	1	N	時間に
	糮	PII.								7 th
										111111
										十田
111+1										十日
通知手										
数対										
111 + 11										十 回 百
特定任										田
意講習										
手数対										
111 + 111										(盤)
(盤)										
111十日										111 14 - 4<
運転技										百五十十
I										田
能検査										
手数料能検査										

	第十三項第二	
	号の表第一号	
	に掲げる講習	
	方法に係るも	
	のである場合	
	114 1-10 1-1 4-10 1	## De 1
		糖阿一
	項第十四号に掲げる	
	糖	C #U
		日日十
		時間に
	号に掲げる講習	C thu
		1111日
11+4		九百円
通知手		
教录		
川十		十 111 石
定任意		H十田
離 知		
教卒		
111 + 1		(盤)
(盤)		
111 + 1 1		111十月
運転技		百五十
能検査		E
中教卒		
備考 (:	鉴)	

麦 第	\leq	(}	無 =	< *	张 狃	R 1	型	紙	1 -	1	Ψ.	黑 1	※)	
										#	羧	菜	6	落
無	紅	₹□	п		×	1		欠		ĸŲ	2	鬞	ൌ	K
										額				
1	技	温	検	\mathbb{X}	型	Ш	動	#	鈱	111	+	\prec	回	Н
-{j 1 -	<u> </u>	ىد	ے	非	´ 1	于 霍	H 4II	画	##					
٢	· 芍	裍	75	免	壮	\bowtie	せ	舞	#					
411	重	₩	6	型	៕	動	##	免	址					
戸	鬥鬥	技	智	N N	庥	N	技	盌	筷					
				定	Ш(-	₩₩	Щ							
				非	浬	Ш	動	#	免	111	+	 (川	4
				計	N	庥	10	技	揾	+	田	•		
				換	定		街 太	4						
				李	定	無	1	種	剰	+	11	回	田	
				村	鈱	#	N	庥	N					
				技	4世	検	定		碘					
				첱										
				\mathbb{X}	型	Ш	動	#	無	回	+	田	旦	4
				1	種	鈱	扯	糠	IJ	+	田	-		
				來	10	技	盌	検	定					
					碘.	色								
1 1	Л	動	#	\mathbb{X}	型	Ш	重	₩	免	1<	+	111	回	4
6	픨	型	技	菲	1	于軍	∰ 4II	画	##	+	田	-		
4⊞ 737	! !!	黑	p	免	芢	\bowtie	#	崇	#					
K	鶴	徽	及	型	Ш	重	#	免	盐					
	然	垣	6					架	検					
#	、船					₩ ₩								
						Ш							Ш	H
						庥			貀	+	田			
						<u>†</u>								
						無				+	弋	Ш	E	
						址		•						
					岩	検	定		碘					
				··· 村			_		1		_			_
						□							川	H
						発				+	丘			
						izi 技	岩	検	定					
111	• E	1		Щ	₩.		/п \					V ⊢	\	
				1		(₺	~)				(盎)	

	和区	_	(:	<u>∰</u> :	\ \ \ \	(T)	<u>t</u>	Ä	/ \$HE		Ι			<u>~</u>	
f	:14_ 1.	⊿ =		_		11			<i>/</i>					9	
1	半米	― か	₹ ^Ⅱ	Ш		X			尔			اكم	黑	ħ	No
_		1. 1	aa								額				
	4								一		E	#	E		
									種						
									蒙"						
									免						
	浬	車	#\$	շ					架	茶					
							十十								
													田	旧	开
					菲	\lesssim	倈	N	技	盌	+	田			
							III({								
					李	定	紙	1	種	浬	+	1	Ш	H	+
					型	鈱	盂	$\tilde{\Sigma}$	庥	10	E	-			
					技	盌	検	定		₩					
					革										
					K	型		動	₩	無		+	1 1	Ш	H
					1 1	種	免	址	₩	\sim	+	田	•		
					炭	10	技	盌	検	定					
					Щ(碘	崔								
1		Щ	重	#	\mathbb{X}	型	Щ	重	₩	鈱	\prec	+	1 .	ШE	Ε
	0	灃	型	技	菲	´ ±	上型	H 4III	重	₩					
	岩岩	\sim	黑	4	免	址	\bowtie	は	舞	#					
	10	観	徽	及	至	៕	重	#	免	芢					
	Ö	깛	桓	0	N	庥	10	技	架	検					
	技	架			定		# #	往							
					丰	浬	Щ	重	₩	鈱	 	+	Ш]	\equiv	
					丰	\lesssim	庥	10	技	盌					
					検	定:		# *	Ħ						
					李	定	無	1	種	灅	1 1	+	[正	T	
					押	鈱	址	N	庥	10					
					技	智	検	定		槲					
					查										
					\forall	型		動	⊞	無	4	+	EI	ШE	Ε
					1 1	種	免	址	徘	だ					
					徠	10	技	架	検	定					
						無	色								
111		E	 रा				(\{	 生)				(图)	

(盤)		(盤)	
五 技能検	大型自動車免二千六百円	五 技能検	大型自動車免ニ干三百丁
定の実施	許、中型自動車	定の実施	計、中型自動車 <u>十日</u>
に関する	免許又は準中	に関する	免許又は準中
安 纜	型自動車免許	安 繼	型自動車免許
	に係る技能検		に係る技能検
	定員審查		定具審查
	普 通 自 動 車 免 干 八 百 五 十		普通自動車免 <u>干九百円</u>
	許に係る技能円		許に係る技能
	検定員審査		検定具審査
	特定第一種運二千五百五		特定第一種運二千六百一
	転免許に係る十円		転免許に係る十円
	技能検定員審		技能検定員審
	档		
六 自動車		大	(2) (2)
の運転技	普通自動車 & 二十日	の運転技	普通自動車免 二千五十円
能の評価	許に係る技能	能の評価	許に係る技能
方法に関	検定員審査	方法に関:	検定員審査
する知識	特定第一種運二千四百円	する知識	特定第一種運 二千五百一
	転免許に係る		転免 許 に 係 る <u>十 円</u>
	技能検定員審		技能検定員審
	ح		Kel
	大型自動車第三千七百五		大型自動車第三千七百円
	二種免許等に十円		二種免許等に
	係る技能検定		係る技能検定
	具審查		具
七 道路運	大型自動車第二千六百円	七 酒路運	大型自動車第二千五百一
送法(昭	二種免許等に	送法(昭	二種免許等に十円
性二十代	係る技能検定	年11十代	係る技能検定
年法律第	具審查	年 渋 律 策	具審查
中) 無二		中) 無11	
条第三項		条第三項	
		に規定す	
に規定す		\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
る旅客自に規定す		る旅客自	
		動車運送	
る旅客自			
動車運送る旅客自			

	_
の業務の	
適正化に	
関する法	
律第二条	
第一項に	
規定する	
自動車運	
転代行業	
に関する	
法令につ	
いての独	
豑	

備考

- 一 技能検定員審査を受けようとす る者が一の項及び二の項の上欄に 掲げる審査細目についての審査の いずれをも免除される者である場 合にあっては、一の項及び二の項 の下欄に定めるところによるほ か、別表第七の二十の頃の下欄に 定める額から更に大型自動車免 許、中型自動車免許又は準中型自 動車免許に係る技能検定員審査に ついては 二千九百五十円を、普通 自動車免許に係る技能検定員審査 については九百円を、特定第一種 運転免許に係る技能検定員審査に ついては十三百五十円を、大型自 動車第二種免許等に係る技能検定 員審査については二千九百円を減 ずるものかする。
- 定める額から更に大型自動車名か、別表第七の二十の頃の下欄にであるところによるほ合にあっては、三の頃及び四の頃いずれをも免除される者である場場げる審査細目についての審査のる者が三の頃及び四の頃の上欄に二 技能検定員審査を受けようとす

職い法に転自規第律関適の て今関代動に一第寸正業 のにす行車す項ニる化務 知つる業庫るに条法にの

備考

- 1 技能検定員審査を受けようとす る者が一の項及び二の項の上欄に 掲げる審査細目についての審査の いずれをも免除される者である場 合にあっては、一の項及び二の項 の下欄に定めるところによるほ か、別表第七の十九の頃の下欄に 定める額から更に大型自動車免 許、中型自動車免許又は準中型自 動車免許に係る技能検定員審査に ついては 二十三百五十円を、普通 自動車免許に係る技能検定員審査 については九百円を、特定第一種 運転免許に係る技能検定員審査に ついては千百円を、大型自動車第 二種免許等に係る技能検定員審査 については二十九百円を減ずるも のかかる。
- 定める額から更に大型自動車免か、別表第七の十九の頃の下欄にのの下欄に定めるところによるほ合にあっては、三の頃及び四の頃いずれをも免除される者である場場げる審査細目についての審査のる者が三の頃及び四の頃の上欄にこ 技能検定員審査を受けようとす

とする。
ついては三百五十円を滅ずるもの運転免許に係る技能検定員審査にいては三百五十円を、特定第一種車免許に係る技能検定員審査につついては五百五十円を、普通自動車免許に係る技能検定員審査に許、中型自動車免許又は準中型自

別表第九 (第八条第一項第二十二号関係)

面 三 一 大 条 法) 能 数 に 技 を 習 し に 人 条 法) 能 数 に 技 を 習 と 能 数 に 技 を 聞 を の 要 数 を 間 を こ と が の 要 数 を 間 を の 面 型 を 間 を こ よ か の 面 型 を 配 は ま ま ま ま ま か の 面 を の 面 型 を 面 型 を の 面 型 を の 面 型 を の 面 型 を の 正 に 面 回 条 面 回 を の 動 又 中 ロ 回 の 面 を の 面 は に 第 中 本 の 面 回 を の 面 日 の の 動 ス 中 日 日 の 日 の の 面 を か 面 日 の の 面 を か 面 日 の の 面 を か 面 日 の の 面 を か 面 日 の の 面 日 の の 面 日 の の 面 か 面 日 の の 面 日 日 日 日			
1日 三 女な習 二 女な習 二 日 ()			手数料の額
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	審査雒目	区分	から滅ずる
A			夠
A	一数智指	大型自動車免	三千八百円
大条件 D 二 大分配 第の第の第の第四 超次記 日二日() 0 0 0 時代 0 0 0 0 時代 0 0 0 0 中紀 0 0 0 0 0 中間 0 0 0 0 0 0 中間 0	導員とし	指、 中型 自 連	
1 回 二 一 公 公 公 公 公 公 公 公 公 公 公 公 公 公 公 公 公 公 公	て必要な	免許又は準中	
1 回	自動車の	型自動車免許	
Table Amage	運転技能	に係る数習指	
1 日		導員審查	
Table Amage		普通自動車免	三千六百五
1 日		許に係る教習	十田
1 大 1 大 1 (1 (2 (3 (4 (4 (4 (4 (5 (6 (7 (7 (8 (8 (9 (10 (<td></td> <td>指導員審查</td> <td></td>		指導員審查	
1 大 1 大 1 (2 (3 (4 (4 (4 (4 (4 (5 (5 (6 (7 (8 (8 (9 (1 (1 (2 (4 (4 (4 (4 (5 (6 (7 (8 (9 (1 (1 (2 (3 (4 (4 (4 (5 (6 (7 (8 (9 (1 (1 (1 (2 (3<		特定第一種運	十二百日
1 大祭の二年を定案を同様をのことをできる。 1 大祭の二年ではるのであり。 1 (路) 1 (路) 1 (路) 1 (路) 2 (路) 4 (日本) 5 (日本) 6 (日本) 7 (日本) 7 (日本) 7 (日本) 7 (日本) 7 (日本) 7 (日本) 8 (日本) 9 (日本) 1 (日本) </td <td></td> <td>転免許に係る</td> <td></td>		転免許に係る	
十人第回転免許に係る 10 大条の二件を定案 一種 運 十三百五十 11 (略) (略) 12 注第百 (略) 13 (略) (略) 14 (略) (略) 15 (略) (略) 16 (略) (20) 17 (20) (20) 18 (20) (20) 19 (20) (20) 10 (20) (20) 11 (20) (20) 11 (20) (20) 12 (20) (20) 13 (20) (20) 14 (20) (20) 15 (20) (20) 16 (20) (20) 17 (20) (20) 18 (20) (20) 19 (20) (20) 10 (20) (20) 10 (20) (20) 10 (20) (20) 10 (20) (20) 10 (20) (20)		教習指導員審	
十八第四 転 免 許 に 係 る 同 大 条 の 二 特 定 第 一 種 運 十 三 百 五 十 三 百 五 十 三 百 五 4 名 8 の (略)		첱	
十八第四 転 免 許 に 係 る 円 八条の二 特 定 第 一 種 運 十 三 百 五 十 三 百 五 十 三 百 五 十 三 百 五 十 三 百 五 十 日 日 4 名 習 名 数 習 拾 導 目 客 る 教 習 拾 導 で 数 習 の 二 種 免 許 等 に 必 数 習 拍 簿 二 十 百 円 日 女 能 数 同 金 車 第 二 十 百 円 (略) (略) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6) (6)		大型自動車第	11日日十四日十四日
十八第四 転免許 に係る 円 八条の二 特定第一 種 運 十三百五十四 四 法第百 (略) (略) 三 (略) (略) (略) (略) (略) は移音 (を) な教習の 二種免許等に な教習の 二種免許等に 習に必要 大型自動車第 二十百円 日は、一十百円 日は、一十百円		二種免許等に	十日
+ 八第四 転 免 許 に 係 る 円 八条 の 二 特 定 第 一 種 運 十 三 百 五 十 三 、 、 、		係る教習指導	
+ 八第四転免許に係る円 八条の二特定第一種運 <u>干三百五十</u> 四 法第百 (略) (略) 三 (略) (略) は移り (略) 技能 係る教習指導 な教習の二種免許等に 習に必要大型自動車第二十百円		貝審查	
十八第四転免許に係る 八条の二特定第一種運 <u>干三百五十</u> 四 四 法第百 (略) (略) 三 (略) (略) 三 (略) (略) は落ち (略) は落ち (略) は落ち (を数智指導 な教習の二種免許等に	二 技能教	(盤)	(盤)
十八第四転 免許 に係る 円 八条の二 特定第一 種 運 <u>干三百五十</u> 四 法第百 (略) (略) 三 (略) (略) (略) 其能 (略) (略)	留に必要	大型自動車第	二十百円
十八第四転免許に係る円 人条の二特定第一種運 〒三百五十四 法第百 (略) (略)三(略)(略)三(略)(略)	な教習の	二種免許等に	
十八第四転免許に係る円 人条の二特定第一種運 干三百五十四 法第百 (略) (略)三 (略)	技能	係る教習指導	
十八第四転免許に係る円 八条の二特定第一種運 <u>干三百五十</u> 四 法第百 (略) (略)		貝審查	
十八第四転免許に係る円人条の二特定第一種運干三百五十	川 (盤)	(盤)	(盤)
十八第四転免許に係る円	四 法第百	(盤)	(盤)
	< ≪ 6 11	特定第一種運	千三百五十
項に規定教習指導員審	十八第四	転免許に係る	E
	項に規定	教習指導員審	

三百円を滅ずるものとする。に係る技能検定員審査についてはは三百円を、特定第一種運転免許許に係る技能検定員審査についてのいては五百円を、普通自動車免割に係る技能検定員審査に計、中型自動車免許又は準中型自

別表第九 (第八条第一項第二十一号関係)

III/4 1	無	九	(:	账 =	< \$	(L 5)	IV	H	/ ¥#		十一
											手数料の額
掛	無米	紅谷	押口	П		\times			R		から減ずる
											酸
1		教		猫	\mathbb{K}	型	Ш	動	₩	免	四十日
:	빩		ىد	ے	苹	′ ±	上星	H 4III	重	₩	
	٢	芍	瞅	4	免	扯	\bowtie	#	舞	#	
	Ш	動	##	0	型	៕	重	##	免	芢	
	刪	型	技	智	긷	庥	N	教		<u>7</u> 1⊞	
					膏	ПЩ(·	一半	(
					丰	浬	Ш	動	#	免	三千五百五
					計	IJ	庥	10	教		十日
					疝	潭:		# #	Ä		
					特	定	無	1	無	浬	十二百五十
					博	免	#	IJ	庥	N	E
					燅	ŖΠ	菰	翀		碘	
					葅						
					\mathbb{K}	型	Ш	動	₩	無	四千二百五
					1 1	種	鈱	址	糠	だ	十旦
					來	10	教		猫	壍	
					Щ(碘	色				
1		技	淵	鞍			(₺	2)			(盤)
	ĘΉ	\approx	芍	裍	K	型	Ш	動	#	無	11十月十日
	Z,	赘		0	1 1	種	鈱	址	糠	IJ	
	技	型型			徠	N	教		猫	渎	
				_	III(+	色	_	_		
		(盤)			(\frac{1}{2}	置)			(盤)
111			_	_	1	_	(\(\)	置)			(盤)
111 EU		洪	紙	Ш							
								1	種	剰	十三百円
EI	\prec	₩	6	1	李	定					十川恒田

する数則	l/mi			- 10		ᄱ			Ì	
の内容と				3 K .		N ul				
なってい				2 C						
る事項を					風を					
の他自動					自動					
車の運転					運転					
に関する国の近事					する					
な 譲る こうしょう				対徳	<i>y</i> / <i>C</i>					
五	(盤)	(盤)	 		便車		(盤)		(2 2)	
	特定第一種運					性 定		運運		
	転免許に係る						群に			_
	教習指導員審單方言。	_					据			
ての知識					知 ,		THE ARI	712 1—		
	大型自動車免	作 五 百 五 十	∮				- 1	車	7 千 五 石 日	-
	許、中型自動車						上型日			_
	免許又は準中						スは			
	型自動車免許						製車			
	に係る教習指						る数			
	谭 貝 審 査			展		潭 具		, ,		
	(盤)	(盤)		_		7111 1	(盤)		(盤)	
·	大型自動車第		77		招 連	大 型		単 锤	(二) 中 用	
	二種免許等に								十日	,
							教習			
/// إلى إلى الله إلى	係る教習指導									
に規定する第三寸	員審査係る数習指導		2	に規.	定す	具海	色			
に規定す	具審查						Ħ			
	具審查		,		谷自		柯			
る旅客自に規定す	具審查		4	の旅	運送自		M			
動車運送る旅客自に規定する	具審查		1 1	副車。 の旅・	及運客び送き		製			
事業及び動車運送る旅客自に規定する	具審查		4 4 7	明 帯 側の 乗 車 が 単 を 単 が 単 が 単 が 単 が ままままままままままままままままま	及運客び送き		声			
画 華 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 瀬 緑 多 路 発 路 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男 男	具審查		1 1 2	明 帯 側の 乗 車 が 単 を 単 が 単 が 単 が 単 が ままままままままままままままままま	行車及運客 業運び送自		型			
野 甲 事 働 め た 働 業 車 茶 声 対 軍 対 顧 移 記 発 証 発 証 覚 深 間 サ	具審查		4 + -1 -1	財 田 事 剰 の 大 興 業 車 対	務 行 車 及 運 客の 業 運 び 送 自		恒			
の恵の事動のな業の動業申款組務の単及運客記の業値で送出す	具審查		# # -1 -4 -4	2 数 日 事 雙 3 業 在 數 業 有 數 業 車 菸	化務行車及運客にの業運び送自		柯			
適の転自事動るに正業代動業車族規化務行車及運客店にの業値で送由す	具審査		# # # #	後 國 少 転 日 事 製 ら 子 正 業 代 動 業 申 旅	化務行車及運客にの業運び送自		有			
関適の転自事動るにす正業代動業申款規る代務行車及運移記分にの業運び送申す	具審査		# # # # # #	後 國 少 転 日 事 製 ら 子 正 業 代 動 業 申 旅	二る化務行車及運客条法にの業運び送自					
律関適の転自事動るに第4上に業代動業車旅規ニる化務行車及運客店条券の業運の送申す	具審査		# # # #	年漫画の転日事製の第十正業代動業車旅	項こる化務行車及運客に条法にの業運び送自		<u>有</u>			
第年関適の転自事動るに一第寸正業代動業車旅規頃」る化務行車及運客記で活のおお	具審査		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	お 年 筬 適 ひ 転 日 事 製 むー 第 寸 正 業 代 動 業 車 旅	す項こる化務行車及運客るに条法にの業運び送自		<u>有</u>			
規第律関適の転自事動るに定一第寸正業代動業 申 茶規す頃」の 化務行 車及運客店の 7 条 3 乗 単 3 を 1 を 3 の 米 運 3 に 3 を 3 に 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4	具 審 哲		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	日放吊年闽區の転日事則の動に一第寸正業代動業申旅	す項こる化務行車及運客るに条法にの業運び送自		<u>南</u>			
自規第律関適の転自事動るに動え一等す正業代動業車旅規車す項こる化務行車及運客定置るに条法にの業運の送由す	具 審 哲			日放吊年闽區の転日事則の動に一第寸正業代動業申旅	行車寸項二る化務行車及運客業運るに条法にの業運び送自		<u>有</u>			

いての知

羅考

- 教習指導員審査を受けようとす る者が一の項及び二の項の上欄に 掲げる審査細目についての審査の いずれをも免除される者である場 合にあっては、一の項及び二の項 の下欄に定めるところによるほ か、別表第七の二十二の頃の下欄 に定める額から更に大型自動車免 許、中型自動車免許又は準中型自 動車免許に係る教習指導員審査に ついては三千円を、普通自動車免 許に係る数習指導員審査について は九百五十円を、特定第一種運転 免許に係る教習指導員審査につい ては千三百五十円を、大型自動車 第二種免許等に係る教習指導員審 査については<u>

 <b</u>
- 二 教習指導員審査を受けようとす る者が四の項及び五の頃の上欄に 掲げる審査細目についての審査の いずれをも免除される者である場 合にあっては、四の項及び五の項 の下欄に定めるところによるほ か、別表第七の二十二の頃の下欄 に定める額から更に大型自動車免 許、中型自動車免許又は準中型自 動車免許に係る教習指導員審査に ついては二百円を、普通自動車免 許に係る教習指導員審査について は百五十円を、特定第一種運転免 許に係る教習指導員審査について は五十円を減ずるものとする。

ずるものかかる。

即表第十一 (第十条関係)

手数料の種別 手数料の額 いての知

羅を

- 教習指導員審査を受けようとす る者が一の項及び二の項の上欄に 掲げる審査細目についての審査の
- いずれをも免除される者である場 合にあっては、一の項及び二の項
- の下欄に定めるところによるほ
- か、別表第七の二十一の項の下欄
- に定める額から更に大型自動車免
- 許、中型自動車免許又は準中型自
- 動車免許に係る教習指導員審査に
- ついては二十四百円を、普通自動
- 車免許に係る教習指導員審査につ
- いては丸百円を、特定第一種運転
- 免許に係る教習指導員審査につい
- ては千百円を、大型自動車第二種
- 免許等に係る教習指導員審査につ
- いては二十八百五十円を破ずるも
- のかかる。
- 二 教習指導員審査を受けようとす る者が四の項及び五の頃の上欄に 掲げる審査細目についての審査の
 - いずれをも免除される者である場
 - 合にあっては、四の項及び五の項
 - の下欄に定めるところによるほ
 - か、別表第七の二十一の項の下欄
 - に定める額から更に大型自動車免
 - 許、中型自動車免許又は準中型自
 - 動車免許に係る教習指導員審査に
 - ついては百五十円を、普通自動車
 - 免許に係る教習指導員審査につい
 - ては百五十円を、特定第一種運転
 - 免許に係る教習指導員審査につい ては百五十円を減ずるものとす

別表第十一 (第十条関係)

手数料の額 手数料の種別

令和6年12月20日

年四月一日から施行する。 2 第二条の規定の施行の日前に、警察署長が自動車の保管場所の確保等に関する法律(昭

こ この条例は、令和七年三月二十四日から施行する。ただし、第二条の規定は、令和七

手数料の種別	手数料の額
・1 (盤)	(盤)
川~ (と)	(盤)

引表第十一 (第十条関係)

(盤)

(器) 水~川

手数料の種別 手数料の額 (24) 三 自動車保管場所標章一枚につき 五百日 交付手数料 四 自動車保管場所標章一枚につき 再交付手数料 五百円 <u>用~</u>< (と) (盤)

別表第十一 (第十条関係)

<u>田~</u>< (器)

交付手数料

回 自動車保管場所標章の再交付を受け ようとする者 自動車保管場所標章再

手数科

三 自動車保管場所標章の交付を受けよ うとする者 自動車保管場所標章交付

に基づき、次の各号に掲げる許可等を受け

|・|| (盤)

ようとする者は、それぞれ当該各号に定め ようとする者は、それぞれ当該各号に定め る種別の手数料を納めなければならない。 る種別の手数料を納めなければならない。

띰 띰 温 改 资 改 (やの色の 中数 菜) (その色の手数型)

正する。

第二条 三重県警察関係手数料条例の一部を次のように改正する。 次の表の改正前欄に掲げる規定を同表の改正後欄に掲げる規定に傍線で示すように改

第十条 地方自治法第二百二十七条の規定第十条 地方自治法第二百二十七条の規定

1~4	(盤)	(盤)
人 認知	機能検査員講習手	<u> </u>
教학		
	自動車安全運転	千百五十日
	センターが行う	
	研修筆を受けた	
	者に対する講習	

に基づき、次の各号に掲げる許可等を受け

1 ~ 7	(盤)	(盤)
人 認知機	從能檢查員講習手	十四 百 五 十
教卖		E
-	日動車安全運転	<u> </u>
	センターが行う	
1	俳修等を受けた	
1	者に対する講習	

における自動車保管場所標章交付手数料は、なお従前の例による。和三十七年法律第百四十五号)第四条第一項ただし書の政令で定める通知を行った場合

三重県県税条例の一部を改正する条例をここに公布します。 令柜大年十二月二十日

三重県知事 一 見 勝 之

三重県条例第五十号

三重県県税条例の一部を改正する条例

三重県県税条例(昭和二十五年三重県条例第三十七号)の一部を次のように改正する。 次の表の改正前欄に掲げる規定を同表の改正後欄に掲げる規定に傍線で示すように改正

やる。

改 正 後	改 圧
至 国	附則
(県民税の法人税割の税率の特例)	(県民税の法人税割の税率の特例)
第十三条 昭和五十一年一月一日から今和	第十三条 昭和五十一年一月一日から今和
十二年十二月三十一日までの間に終了す	七年十二月三十一日までの間に終了する
る各事業年度分の法人税割に対する法人	各事業年度分の法人税割に対する法人税
税額に係る法人税割の税率は、第三十一条	額に係る法人税割の税率は、第三十一条の
の規定にかかわらず、百分の一・八とする。	規定にかかわらず、百分の一・八とする。

宝 宝

この条例は、公布の日から施行する。

公立学校職員の給与に関する条例の一部を改正する条例をここに公布し 来る。

令柜大年十二月二十日

三重県知事 一見勝之

三重県条例第五十一号

公立学校職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

公立学校職員の給与に関する条例(昭和三十年三重県条例第十号)の一部を炊のように

次の表の改正前欄に掲げる規定を同表の改正後欄に掲げる規定に傍線で示すように改正 やる。

띰 筬 띰 改 改 温

() () ()

改正する。

第二条 この条例において公立学校職員(以第二条 この条例において公立学校職員(以 下「職員」という。) とは、県から給与の 支給を受け、炊の各号に掲げる者のうち、 常時勤務に服するもの及び地公法第二十 二条の四第一項又は第二十二条の五第一 項若しくは第二項に規定する短時間勤務 の職を占めるものをいう。

」~目 (器)

五 県立の中学校の校長、教頭、主幹教諭 指導教論、教論、養護教論、栄養教諭 助教論、養護助教論、講師、学校栄養職 員、事務職員その他の職員

2 (器)

(教職調整額を給料とみなして適用する 規定)

第十二条の三 前条第一項の教職調整額を第十二条の三 前条第一項の教職調整額を 受ける者に係る第十五条の二、第十七条第 <u>|| 国第十二時、</u>第十七条の二、第十七条の 十、鮱川十川然、鮱川十国然、鮱川十闰然、 第二十五条の二、第三十条、公立学校職員 の退職手当に関する条例 (昭和三十年三重 県条例第十一号)、外国の地方公共団体の 機関等に派遣される職員の処遇等に関す る条例(昭和六十三年三重県条例第一号) 及び公益的法人等への職員の派遣等に関 する条例 (平成十三年三重県条例第六十六 号)の規定並びにこれらに基づく規則の規

() () ()

下「職員」という。) とは、県から給与の 支給を受け、炊の各号に掲げる者のうち、 常時勤務に服するもの及び地公法第二十 二条の四第一項又は第二十二条の五第一 項若しくは第二項に規定する短時間勤務 の職を占めるものをいう。

」~目 (器)

(盤)

(教職調整額を給料とみなして適用する 規定)

受ける者に係る第十五条の二、第十七条の 二、第十七条の十、第二十三条、第二十回 条、第二十五条、第二十五条の二、第三十 条、公立学校職員の退職手当に関する条例 (昭和三十年三重県条例第十一号)、外国 の地方公共団体の機関等に派遣される職 員の処遇等に関する条例 (昭和六十三年三 重県条例第一号)及び公益的法人等への職 員の派遣等に関する条例 (平成十三年三重 県条例第六十六号)の規定並びにこれらに 基づく規則の規定の適用については、前条 定の適用については、前条第一項の教職調工第一項の教職調整額は、給料とみなす。 整額は、給料とみなす。

解十九条 (器)

 \mathcal{M}_{\circ}

」~目 (容)

う高等学校又は中学校において、夜間に 勤務する職員及び県立学校の寄宿舎に 勤務する職員に対して支給する手当を でる。

(盤) (4)

十二 夜間中学教育業務手当 夜間に授 業を行う中学校に勤務する職員が、本務 として夜間に授業を行う学級に係る業 務に従事した場合に支給する手当をい √C °

∞ (盤)

亲 三

(8) $(2 \sim 1)$

3. 附則第十八項又は前二項の規定による 3. 附則第十八項又は前二項の規定による の二第一項、第二十五条第一項、第二十五 料月額」とあるのは、「給料月額と附則第 よる給料の額との合計額」とする。

2. ・ 4. (唇)

係)

イ 高等学校等教育職給料表等級別基準 職務表

職務の級	基準となる職務
	高等学校及び特別支援学校の
1級	養護助教諭、講師、寄宿舎指導員
	又は実習助手の職務

一部十九条 (器)

2 前項の手当の区分は、次のとおりとす2 前項の手当の区分は、次のとおりとす \mathcal{M}_{\circ}

一~□ (容)

五 夜間定時制等手当 夜間に授業を行 五 夜間定時制等手当 夜間に授業を行 う高等学校において、夜間に勤務する職 員及び県立学校の寄宿舎に勤務する職 員に対して支給する手当をいう。

(器) (十~)

8 (盤)

温 装

(8) $2 \sim 1$

給料を支給される職員に対する第十二条 給料を支給される職員に対する第十二条 の二第一項、第二十五条第一項及び第二十 定の適用については、これらの規定中「給」これらの規定中「給料月額」とあるのは、 「給料月額と附則第十八項、第二十項又は 十八頃、第二十頃又は第二十一頃の規定に 第二十一頃の規定による給料の額との合 計額」とする。

23・42 (零)

別表第四の二 等級別基準職務表(第9条関別表第四の二 等級別基準職務表(第9条関 係)

> イ 高等学校等教育職給料表等級別基準 職務表

職務	基準となる職務
の級	
	<u>県立学校</u> の養護助教諭、講師、
1級	寄宿舎指導員又は実習助手の職
	務

	1
	高等学校及び特別支援学校の
D VII	教諭、養護教諭、栄養教諭、教諭
2級	兼寄宿舎指導員又は教諭兼実習
	助手の職務
the cover	高等学校及び特別支援学校の
特2級	主幹教諭の職務
0 /27	高等学校及び特別支援学校の
3級	教頭の職務
4 Vert	高等学校及び特別支援学校の
4級	校長の職務

ロ 中学校・小学校教育職給料表等級別基 準職務表

- 1HV	177 24
職務の級	基準となる職務
1 級	<u>小学校、中学校及び義務教育学校の</u> 参護助教諭又は講師の職務
2 級	小学校、中学校及び義務教育学 校の教諭、養護教諭又は栄養教諭 の職務
特2級	<u>小学校、中学校及び義務教育学</u> 校の主幹教諭又は指導教諭の職 務
3 級	<u>小学校、中学校及び義務教育学</u> 校の教頭の職務
4 級	<u>小学校、中学校及び義務教育学</u> 校の校長の職務

ハ (略)

二 行政職給料表等級別基準職務表

職務の級	基準となる職務
(略)	(略)
	1 県立学校の事務長又は市町
	立学校 <u>(市町立の小学校、中</u>
E &TA	学校及び義務教育学校をい
5級	<u>う。以下この表において同</u>
	<u>じ。)</u> の総括主幹の職務
	2 (略)

L	
2 級	<u>県立学校</u> の教諭、養護教諭、栄
	養教諭、教諭兼寄宿舎指導員又は
	教諭兼実習助手の職務
特2級	<u>県立学校</u> の主幹教諭の職務
3 級	<u>県立学校</u> の教頭の職務
4 級	県立学校の校長の職務

ロ 中学校・小学校教育職給料表等級別基 準職務表

1 194 33 24	
職務の級	基準となる職務
1級	市町立学校(市町立学校の小学校、中学校及び義務教育学校をいう。以下同じ。) の養護助教諭又は講師の職務
2級	<u>市町立学校</u> の教諭、養護教諭又 は栄養教諭の職務
特2級	<u>市町立学校</u> の主幹教諭又は指 導教諭の職務
3 級	市町立学校の教頭の職務
4 級	<u>市町立学校</u> の校長の職務

ハ (略)

二 行政職給料表等級別基準職務表

職務	基準となる職務
の級	を 中 こ な る 椒 坊
(略)	(略)
	1 県立学校の事務長又は市町
	立学校の総括主幹の職務
5 級	
	2 (略)

(略) (略) (略) (略) 別表第五 (第十七条関係) 別表第五 (第十七条関係) 特殊勤務手当支給限度額表 特殊勤務手当支給限度額表 区分 手当の限度額 区分 手当の限度額 (盤) | ~ 十 | (盤) (盤) 十二 夜間中学教育一月につき 業務手当 料月額の百分の

至 至 この条例は、今和七年四月一日から施行する。

86

例をここに公布します。公立学校の会計年度任用職員の報酬等に関する条例の一部を改正する条

令柜大年十二月二十日

三重県知事 一 見 勝 之

三重県条例第五十二号

公立学校の会計年度任用職員の報酬等に関する条例(令和元年三重県条例第三号)の一公立学校の会計年度任用職員の報酬等に関する条例の一部を改正する条例

する。 次の表の改正前欄に掲げる規定を同表の改正後欄に掲げる規定に傍線で示すように改正部を次のように改正する。

改 띰 \mathbb{H} 送 改 温 () () () () () () 第二条 この条例において「職員」とは、県第二条 この条例において「職員」とは、県 立の高等学校、特別支援学校及び中学校並 立の高等学校及び特別支援学校並びに市 びに市町(一部事務組合を含む。)立の小 町(一部事務組合を含む。)立の小学校、 学校、中学校及び義務教育学校の教育職員 中学校及び義務教育学校の教育職員(公立 (公立学校職員の給与に関する条例(昭和 学校職員の給与に関する条例 (昭和三十年 三十年三重県条例第十号。以下「給与条例」 三重県条例第十号。以下「給与条例」とい という。) 第二条第二項に規定する教育職 う。) 第二条第二項に規定する教育職員を 員をいう。以下同じ。)、学校栄養職員、 いう。以下同じ。)、学校栄養職員、事務 事務職員、技術職員及びその他の職員のう 職員、技術職員及びその他の職員のうち、 法第二十二条の二第一項第一号に規定す ち、法第二十二条の二第一項第一号に規定 する会計年度任用職員をいう。 る会計年度任用職員をいう。

至 三

この条例は、令和七年四月一日から施行する。

発行 **三 重 県**

三重県津市栄町1丁目891 三重県総務部法務・文書課 電話 059-224-2163

三重県公報は三重県ホームページにも掲載しています。 https://www.pref.mie.lg.jp/